

第3章 県民の重要度、充足度、ニーズ等

この調査では、県民生活の種々の側面に関する13領域66項目について、それぞれの重要度合や充足度合を5段階で聞き、平均得点方式でその得点を集計して序列化した。

重要度合については、それぞれの項目が現在の生活にとってどの程度重要かについて、「非常に重要」から「まったく重要でない」まで、重要度を5段階に分けて回答を求め、「非常に重要」には5点、「まったく重要でない」には1点を与える5段階尺度により、項目ごとの重要度得点を算出した。

また、充足度合についても同様に、それぞれの項目が現在どの程度満たされているかについて「十分満たされている」から「ほとんど満たされていない」の5段階に分けて回答を求め、「十分満たされている」には5点、「ほとんど満たされていない」には1点を与える5段階尺度により、充足度得点を算出した。

重要度と充足度を求めた後、それぞれの領域及び項目に対する県民の欲求の強さをみるために、重要度得点×(6-充足度得点)によりニーズ得点を算出した。このニーズ得点は、重要度が高く、かつ充足度が低い項目で高くなる。つまり、重要度合が高いにもかかわらず充足されてない項目が、人々のニーズの高いものであることに着眼し県民ニーズを測定した。

1. 生活各面の重要度

重要度については、県民生活に関する具体的項目（66項目）について、県民がいまの暮らしにとってどのくらい重要であると考えているかを、「非常に重要」から「かなり重要」、「どちらともいえない」、「それほど重要でない」、「まったく重要でない」までの5段階に分けて回答を求めた（問1）。そして、前述の要領で各段階にウェイトを与え、各項目ごとに平均得点を求めて重要度としての指標としたが、その結果は表3-1-1のとおりである。

項目別に重要度得点をみると、最も高いのは「犯罪検挙の充実」で、次いで「救急医療体制の確保」「犯罪の防止」「上水道の整備」等と続いているが、一方、低い項目としては「長期滞在型リゾート施設整備」「地域行事への参加」「クラブ参加の機会」「公共住宅の整備」等となっている。平均得点1位の「犯罪検挙の充実」（4.64）から、66位の「長期滞在型リゾート施設整備」（3.11）まで、1.5ポイントの幅に分布しており、最低の項目でも「どちらともいえない」をやや上回っている。また、全項目（66項目）の平均得点は4.06で、「かなり重要」を上回り、生活項目への重要感はかなり高い水準を示している。

領域別にみると（図3-1-1）、「防犯」領域の重要度が最も高く、次いで「安全」「医療と保健」「消費生活」領域と続き、県民が基本的な生活を維持していく上で必要と考えられる領域の重要度が上位にある。一方、「余暇」「地域活動」「教育」「文化」等の重要度は、相対的に低い状況となっている。

図3-1-1 重要度得点

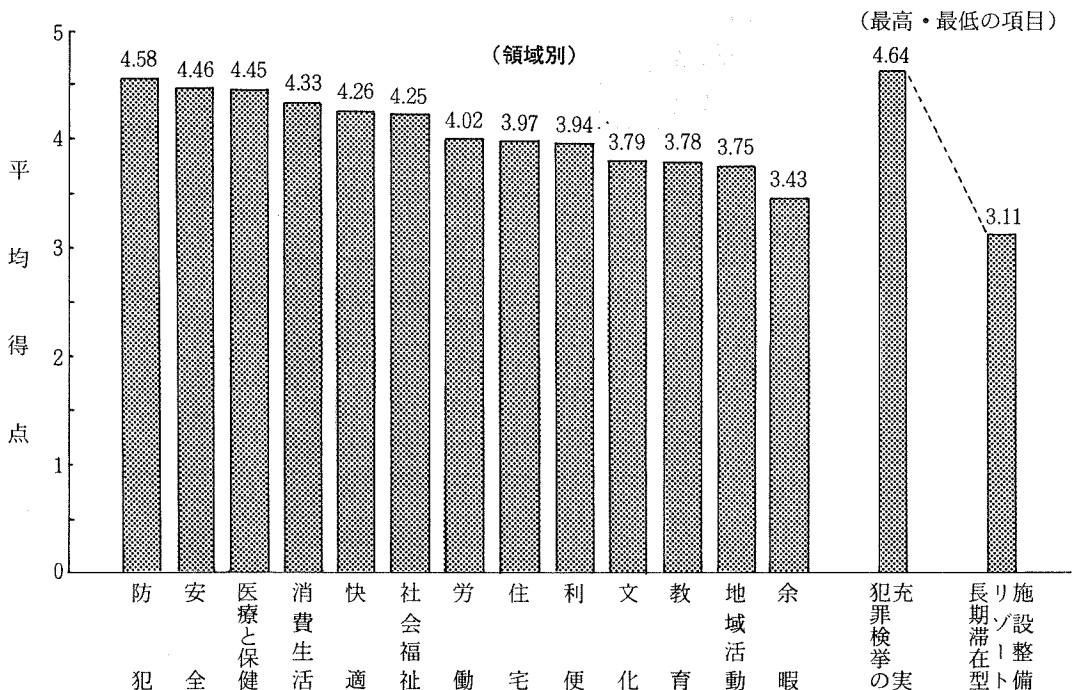


表 3 - 1 - 1 重要度の平均得点

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	1. 診療・治療の機会	4.55	0.74	16.2	4.45
	2. 費用の心配のない診療	4.40	0.81	18.5	
	3. 病気の予防・健康相談	4.23	0.83	19.7	
	4. 救急医療体制の確保	4.60	0.68	14.7	
教育	5. 幼稚園の施設内容	3.77	1.04	27.6	3.78
	6. 小・中・高校の施設内容 (改)	3.92	0.97	24.7	
	7. 大学教育の開放	3.72	0.99	26.6	
	8. 各種学校の充実	3.59	1.03	28.8	
	9. 特殊教育の充実	3.92	0.97	24.6	
	10. 図書館・独学施設の整備	3.76	0.97	25.7	
文化	11. 生涯教育	3.86	0.91	23.6	3.79
	12. 文化遺産・史跡の保護	3.93	0.89	22.6	
	13. 伝統工芸の振興	3.58	0.91	25.5	
労働	14. 失業の不安の解消	4.41	0.81	18.4	4.02
	15. 仕事のやりがい	4.32	0.80	18.6	
	16. 職場の安全確保	4.24	0.87	20.6	
	17. 男女賃金格差の解消	3.93	0.96	24.4	
	18. 高齢者・身障者の就業機会	3.94	0.90	22.8	
	19. 職業、居住地選択の自由	3.96	0.94	23.7	
	20. 転職の機会	3.55	0.98	27.5	
	21. 県内就職の機会	3.87	1.02	26.3	
22. 職業紹介・訓練の充実 (新)	3.94	0.92	23.4		
住宅	23. 持家の確保	4.28	0.93	21.7	3.97
	24. 公共住宅の整備	3.47	1.07	30.7	
	25. 一人一部屋の確保	3.74	1.10	29.3	
	26. 地価の安定	4.19	0.97	23.1	
	27. 良好な住宅環境	4.16	0.89	21.3	
利便	28. 住宅の交通の便	4.07	0.96	23.5	3.94
	29. 買物の利便	3.88	0.96	24.7	
	30. 情報の得易さ (新)	3.86	0.91	23.6	
快適	31. 上水道の整備	4.56	0.69	15.1	4.26
	32. 公園の整備	3.94	0.97	24.6	
	33. ゴミ、下水の衛生処理	4.45	0.72	16.1	

表3-1-1 重要度の平均得点(続)

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
	34. 親しめる自然環境	4.06	0.91	22.3	
	35. 緑地の確保	4.13	0.82	19.8	
	36. 公害防止の充実	4.39	0.78	17.9	
安全	37. 基地の安全管理の確保	4.35	0.90	20.7	4.46
	38. 災害対策の充実	4.45	0.76	17.1	
	39. 歩行者の安全確保	4.54	0.67	14.9	
	40. 交通ルールの遵守	4.50	0.70	15.5	
消費生活	41. 収入の増加	4.35	0.81	18.7	4.33
	42. 物価の安定	4.49	0.69	15.5	
	43. 年金制度の充実	4.51	0.75	16.6	
	44. 税負担の公平さ (新)	4.38	0.81	18.6	
	45. 商品苦情相談の充実	3.92	0.92	23.7	
余暇	46. 週休2日制、労働時間の短縮	3.57	1.06	29.7	3.43
	47. 長期休暇の取得	3.52	1.09	31.0	
	48. 運動施設の利用機会	3.56	1.01	28.3	
	49. クラブ参加の機会	3.41	1.02	30.0	
	50. リゾート施設の整備 (新)	3.11	1.04	33.4	
防犯	51. 犯罪の防止	4.60	0.66	14.4	4.58
	52. 犯罪検挙の充実	4.64	0.62	13.4	
	53. 暴力対策	4.54	0.67	14.8	
	54. 法執行の公正	4.54	0.71	15.6	
社会福祉	55. 親と子の対話	4.51	0.70	15.7	4.25
	56. 青少年の非行防止	4.44	0.77	17.4	
	57. 家事、育児、教育相談の充実	3.99	0.93	23.2	
	58. 福祉サービスの充実	4.45	0.73	16.4	
	59. 生活保障の確保	4.41	0.74	16.8	
	60. 保育の機会	3.69	1.08	29.3	
地域活動	61. 近隣とのつきあい	4.05	0.88	21.8	3.75
	62. 地域行事への参加	3.28	0.98	29.8	
	63. 公民館・集会場の利用機会	3.48	0.99	28.6	
	64. コミュニティ組織の充実	3.52	0.99	28.1	
	65. 住民参加	4.09	0.84	20.5	
	66. 福祉活動 (新)	4.06	0.81	19.8	
県計		4.06	0.97	23.8	

(1) 重要度の高い項目と低い項目

重要度得点の高い項目、低い項目を、それぞれ15位まで抜き出したのが、表3-1-2、表3-1-3である。

まず、重要度の高い項目をみると、犯罪検挙の充実、犯罪の防止、暴力対策、法執行の公正など「防犯」領域に関するものが多く、次いで、救急医療体制の確保、診療・治療の機会など「医療と保健」領域に関する項目や、歩行者の安全確保、交通ルールの遵守など「安全」領域に関する項目が上位に並んでいる。また、上水道の整備、ゴミ・下水の衛生処理など「快適」領域や、年金制度の充実、物価の安定など「消費生活」領域に関する項目があり、さらに、親と子の対話、福祉サービスの充実など「社会福祉」領域に関する項目もあがっている。これらの項目をみると、まず生命・身体の安全に関する項目の重要度が高く、次いで生活環境の整備に関する項目が続いているが、県民の基本的な生活を維持する項目が意識の上で重要度の高さとして表われているものといえよう。

表3-1-2 重要度の高い項目

順位	項目番号	項目	得点	領域
1	52.	犯罪検挙の充実	4.64	防 犯
2	4.	救急医療体制の確保	4.59	医 療 と 保 健
3	51.	犯罪の防止	4.59	防 犯
4	31.	上水道の整備	4.56	快 適
5	1.	診療・治療の機会	4.54	医 療 と 保 健
6	54.	法執行の公正	4.54	防 犯
7	39.	歩行者の安全確保	4.54	安 全
8	53.	暴力対策	4.54	防 犯
9	55.	親と子の対話	4.54	社 会 福 祉
10	43.	年金制度の充実	4.51	消 費 生 活
11	40.	交通ルールの遵守	4.50	安 全
12	42.	物価の安定	4.50	消 費 生 活
13	33.	ゴミ、下水の衛生処理	4.45	快 適
14	58.	福祉サービスの充実	4.45	社 会 福 祉
15	38.	災害対策の充実	4.45	安 全

一方、重要度の低い項目をみると、長期滞在型リゾート施設整備、クラブ参加の機会、運動施設の利用機会、週休2日制・労働時間の短縮、長期休暇の取得など「余暇」領域に関するものが最も多く、次いで、地域行事への参加、公民館・集会場の利用機会、コミュニティ組織の充実など「地域活動」領域に関する項目が並んでいる。また、公共住宅の整備、一人一部屋の確保など「住宅」領域に関する項目や、転職の機会など「労働」に関する項目もあり、その他、伝統工芸の振興、各種学校の充実、保育の機会、大学教育の開放などの項目に対する県民の重視度も比較的低い状況にある。これらの項目は、県民の生命や生活を維持していくのに当面さほど急を要しない項目と考えられ、県民の意識の上でも重要度の低いものとして表われているものといえよう。

表3-1-3 重要度の低い項目

順位	項目番号	項目	得点	領域
1	50.	長期滞在型リゾート施設整備	3.11	余暇
2	62.	地域行事への参加	3.28	地域活動
3	49.	クラブ参加の機会	3.41	余暇
4	24.	公共住宅の整備	3.47	住宅
5	63.	公民館、集会場の利用機会	3.48	地域活動
6	47.	長期休暇の取得	3.52	余暇
7	64.	コミュニティ組織の充実	3.52	地域活動
8	20.	転職の機会	3.55	労働
9	48.	運動施設の利用機会	3.56	余暇
10	46.	週休2日制、労働時間の短縮	3.57	余暇
11	13.	伝統工芸の振興	3.58	文化
12	8.	各種学校の充実	3.59	教育
13	60.	保育の機会	3.69	社会福祉
14	7.	大学教育の開放	3.72	教育
15	25.	一人一部屋の確保	3.74	住宅

(2) 領域別の比較

こうして上下15位に入った項目をみてくると、生活の領域によって自ずと重要度に高低があることがわかる。そこで、全領域の結果を通覧するために、領域ごとの重要度の平均値を算出し、その順位と、上下15位に入った項目数とを並べたのが、表3-1-4である。

領域別の平均得点をみると、「防犯」領域をはじめ、「安全」「医療と保健」「消費生活」などの領域の得点が高く、一方、「余暇」領域のほか、「地域活動」「教育」「文化」などの領域の得点は低位となっている。また、「快適」「社会福祉」「労働」「住宅」「利便」などの領域はほぼ中位にあるが、この内では「快適」と「社会福祉」の領域かやや高く、特に「社会福祉」領域は項目が上位と下位に分布し、項目による変動が大きくなっている。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の高い「防犯」領域では、4項目中全部上位15位に入った項目が占め、次いで「安全」が4項目中3、「医療と保健」が4項目中2、「消費生活」が5項目中2となっているが、得点が最も低い「余暇」領域では、5項目中全部下位15位に入った項目が占めたほか、「地域活動」が6項目中3、「教育」が6項目中2、「文化」が、3項目中1となっている。平均得点が1位の「防犯」領域と最下位の「余暇」領域では、平均得点で1.15の開きがあり、また、その他の領域を含め、領域の平均得点の大小と上下15位に入った項目数の間には一定の関係もみられ、領域間の重要度に明らかに差が認められよう。

こうしてみると、重要度の高い領域は日常生活の基盤となるものが多く、一方、低い領域は「余暇」を除き公的色彩が強く、また具体的な項目で県民の関心の持ち方に違いがあるものが少なくない。ちなみに、重要度得点と変動係数をみると(図3-1-2)、「防犯」領域の犯罪検挙

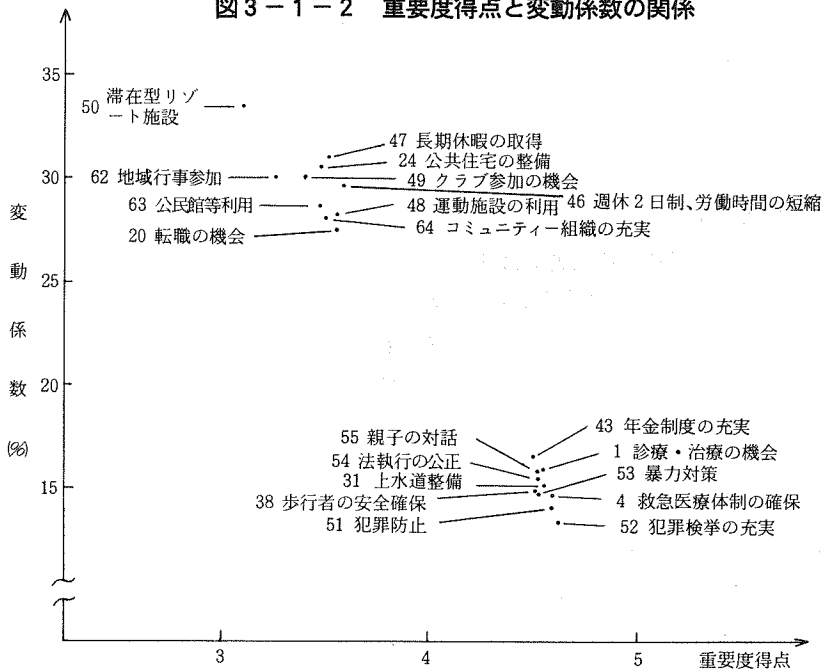
の充実など重要度の高い項目は、いずれも変動係数が小さく、県民が一致して重要視しているものとみられ、逆に、「余暇」領域の長期滞在型リゾート施設など重要度の低い項目群は、総じた変動係数が大きく、県民の重視度合にはかなり個人差があるものとみられる。

表 3-1-4 領域別にみた重要度

領域	平均得点	同左の順位	上位15位に入った項目数	下位15位に入った項目数
防犯	4.58	①	4/4	
安全	4.46	②	3/4	
医療と保健	4.45	③	2/4	
消費生活	4.33	④	2/5	
快適	4.26	⑤	2/6	
社会福祉	4.25	⑥	2/6	1/6
労働	4.02	⑦		1/9
住宅	3.97	⑧		2/5
利便	3.94	⑨		
文化	3.79	⑩		1/3
教育	3.78	⑪		2/6
地域活動	3.75	⑫		3/6
余暇	3.43	⑬		5/5

(分母の数字は、各領域の項目数)

図 3-1-2 重要度得点と変動係数の関係



(3) 地域別の重要度

次に、地域別に重要度をみると(表3-1-5)、総体的には地域間に大きな差はみられなかったが、中部地域が上位の領域が多かった反面、5、6位の下位に入った領域がなく、全体的に重要度得点の最も高い地域となった。また、那覇地域は、相対的に低い領域が2あったが、上位の領域も多く、中部地域に次いで重要度得点が高く、さらに八重山地域も、「防犯」「安全」領域の重要度が目立ち、比較的に高い水準となっている。一方、宮古地域は、「文化」「地域活動」を除く11の領域が全体の平均値を下回り、重要度得点の最も低い地域となっている。その他、北部地域においては「文化」「安全」領域が最下位で、全体的にも重要度水準は低位で、また、南部地域では全領域とも中位の得点水準を示し、全体的にも中程度の重要度水準であった。

これを地域別の項目順位でみると(表3-1-6)、平均得点が最も高かったのは、北部と中部、那覇においては、犯罪検挙の充実、南部が救急医療体制の確保、宮古が上水道の整備、八重山が法執行の公正となっている。また、2位については北部と中部、那覇が犯罪の防止、南部と八重山が犯罪検挙の充実、宮古が救急医療体制の確保、3位は北部と中部、那覇が救急医療体制の確保、南部が上水道の整備、宮古が法執行の公正、八重山が犯罪の防止となっている。このように北部や中部、那覇、南部は防犯、医療面を最重要視する状況にあるが、その中では北部と中部、那覇は医療面より防犯面をより重視している。また、宮古においては上水道の整備を最重要視しており、防犯面については犯罪の防止が13位と低く、八重山では法執行の公正が最も重要視されているなど、他地域と異なった状況にある。

また、地域別の項目順位を、県計の順位と比べてみると、北部地域では県内就職の機会が相対的に高い重要度を示した反面、法執行の公正が低くなっているのが目立つ。また、那覇地域では税負担の公平さに対する重要度は相対的に高かったが、逆に職業紹介・訓練の充実、保育の機会などは低かった。一方、宮古地域では、県全体の項目順位とかなりの差があり、ゴミ・下水の衛生処理の重要度が相対的に高いほか、災害対策の充実、持家の確保、生涯教育などは高く、逆に、犯罪の防止、暴力対策、住宅の交通の便などに対する重要度は低くなっている。また、八重山地域でも青少年の非行防止、情報の得易さなどの重要度が高くなっている反面、上水道の整備、住宅の交通の便などはかなり低くなっている。なお、中部地域、南部地域は県全体の得点順位とほぼ一致し、県全体の重要度の傾向とほぼ同じとなっている。

このように、生活各面に対する見方は、地域により異なる状況がみられ、特に宮古、八重山の違いが目立つ状況にあるが、防犯面や安全面などの生活環境に対する意識の違いが作用しているものとみられる。

表 3 - 1 - 5 領域別、地域別重要度得点

領 域	北 部	中 部	那 覇	南 部	宮 古	八重山	県 計
医 療 と 保 健	4.43 ⑥	4.44 ④	4.46 ①	4.44 ④	4.46 ①	4.46 ①	4.45
教 育	3.77 ③	3.80 ①	3.77 ③	3.79 ②	3.66 ⑥	3.76 ⑤	3.78
文 化	3.65 ⑥	3.78 ③	3.88 ①	3.77 ④	3.79 ②	3.67 ⑤	3.79
労 働	4.02 ②	4.03 ①	4.02 ②	4.00 ④	3.90 ⑥	3.99 ⑤	4.02
住 宅	3.92 ④	3.98 ①	3.98 ①	3.98 ①	3.91 ⑤	3.86 ⑥	3.97
利 便	3.89 ④	3.94 ③	3.99 ①	3.95 ②	3.72 ⑥	3.83 ⑤	3.94
快 適	4.22 ⑤	4.25 ④	4.27 ②	4.26 ③	4.20 ⑥	4.29 ①	4.26
安 全	4.40 ⑥	4.48 ②	4.47 ③	4.42 ④	4.42 ④	4.50 ①	4.46
消 費 生 活	4.25 ⑤	4.34 ③	4.36 ②	4.31 ④	4.24 ⑥	4.37 ①	4.33
余 暇	3.33 ⑤	3.44 ③	3.48 ①	3.45 ②	3.23 ⑥	3.40 ④	3.43
防 犯	4.53 ⑤	4.59 ③	4.60 ②	4.55 ④	4.48 ⑥	4.67 ①	4.58
社 会 福 祉	4.22 ④	4.29 ①	4.20 ⑤	4.26 ③	4.11 ⑥	4.27 ②	4.25
地 域 活 動	3.76 ⑤	3.78 ③	3.64 ⑥	3.81 ①	3.80 ②	3.78 ③	3.75
計	4.02 ⑤	4.08 ①	4.07 ②	4.06 ③	3.98 ⑥	4.06 ③	4.06

注) ○内は領域別の地域順位

表3-1-6 重要度得点順位表

県 計		地 域 別					
項 目	順位	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山
52. 犯罪検挙の充実	1	1	1	1	2	5	2
4. 救急医療体制の確保	2	3	3	3	1	2	6
51. 犯罪の防止	3	2	2	2	4	13	3
31. 上水道の整備	4	4	4	8	3	1	11
1. 診療・治療の機会	5	5	8	6	5	11	10
54. 法執行の公正	6	11	9	4	6	3	1
39. 歩行者の安全確保	7	7	5	7	9	8	7
53. 暴力対策	8	6	7	5	7	14	5
55. 親と子の対話	9	8	6	13	8	7	14
43. 年金制度の充実	10	9	11	9	12	4	12
40. 交通ルールの遵守	11	10	13	10	11	10	8
42. 物価の安定	12	12	10	11	10	18	16
33. ゴミ、下水の衛生処理	13	16	15	16	13	6	9
58. 福祉サービスの充実	14	14	12	17	15	21	15
38. 災害対策の充実	15	18	16	14	14	9	13
56. 青少年の非行防止	16	15	14	20	17	17	4
14. 失業の不安の解消	17	13	18	21	16	15	21
59. 生活保障の確保	18	19	17	18	20	25	17
2. 費用の心配のない診療	19	20	21	15	19	12	25
36. 公害防止の充実	20	17	19	19	22	19	20
44. 税負担の公平さ	21	22	22	12	23	26	19
41. 収入の増加	22	23	23	24	18	22	18
37. 基地の安全管理の確保	23	21	20	23	25	24	22
15. 仕事のやりがい	24	24	24	22	24	28	23
23. 持家の確保	25	26	25	26	21	16	30
16. 職場の安全確保	26	28	26	27	26	27	26
3. 病気の予防、健康相談	27	25	27	29	28	20	24
26. 地価の安定	28	27	28	30	27	33	35
27. 良好な住宅環境	29	33	29	25	29	31	33
35. 緑地の確保	30	32	32	28	31	32	27
65. 住民参加	31	34	31	33	30	23	28
28. 住宅の交通の便	32	35	30	31	32	50	58
66. 福祉活動	33	31	34	35	33	30	32

表 3 - 1 - 6 重要度得点順位表 (続)

県 計		地 域 別						
項 目	順位	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	
34. 親しめる自然環境	34	29	36	32	35	34	29	
61. 近隣とのつきあい	35	30	33	40	34	29	31	
57. 家事、育児、教育相談の充実	36	39	35	41	36	39	37	
19. 職業、居住地選択の自由	37	38	42	34	43	36	39	
18. 高齢者・身障者の就業機会	38	41	39	36	42	47	45	
22. 職業紹介・訓練の充実	39	37	37	48	45	41	46	
32. 公園の整備	40	40	41	43	37	44	40	
12. 文化遺産・史跡の保護	41	44	45	37	39	37	49	
17. 男女賃金格差の解消	42	42	40	38	41	49	41	
6. 小中高校の施設内容	43	46	43	47	38	40	47	
45. 商品苦情相談の充実	44	49	44	39	40	38	36	
9. 特殊教育の充実	45	43	38	44	44	51	43	
29. 買物の利便	46	48	46	46	46	46	42	
21. 県内就職の機会	47	36	47	50	47	42	38	
30. 情報の得易さ	48	47	49	42	50	45	34	
11. 生涯教育	49	53	48	45	48	35	48	
5. 幼稚園の施設内容	50	45	50	53	52	48	53	
10. 図書館・独学施設の整備	51	51	51	49	51	53	51	
25. 一人一部屋の確保	52	55	52	52	53	43	52	
7. 大学の開放	53	54	53	51	54	52	50	
60. 保育の機会	54	50	54	58	49	60	60	
8. 各種学校、専修学校の充実	55	52	55	61	57	55	44	
13. 伝統工芸の振興	56	61	58	54	61	58	61	
46. 週休2日制、労働時間の短縮	57	62	56	55	58	64	59	
48. 運動施設の利用機会	58	59	59	59	56	56	54	
20. 転職の機会	59	57	60	57	60	59	62	
64. コミュニティ組織の充実	60	56	57	64	55	57	55	
47. 長期休暇の取得	61	63	61	56	62	63	56	
63. 公民館・集会場の利用機会	62	60	62	63	59	54	57	
24. 公共住宅の整備	63	58	63	60	63	62	64	
49. クラブ参加の機会	64	65	64	62	64	65	63	
62. 地域行事への参加	65	64	65	66	65	61	65	
50. リゾート施設の整備	66	66	66	65	66	66	66	

(4) 重要度の時系列比較

次に、重要度の水準が昭和54年、59年と比べてどのように変化したのかを見るため、時系列比較し、その変化の方向を整理したのが、表3-1-7である。なお、今回と比較して54年、59年とも具体的項目に変更があったため、66項目56項目（59年は58項目）について、比較が可能である。

全体を通覧すると、重要度の変動は概して小さく、54→59年が $-0.03 \sim -0.29$ 、59→平成2年が $+0.17 \sim -0.13$ 程度の得点幅となっている。また、変化の方向という観点からみると、54→59年では56項目の全項目で得点が低下したが、59→平成2年においては58項目中、上昇した項目が27、低下した項目が30と、上昇傾向に比べ低下傾向の項目が若干多くなっている。

このように全体的な重要度の動向は、54→59年が低下傾向、59→平成2年がほぼ横ばいであったが、特に、54→59年では、幼稚園の施設内容、伝統工芸の振興、持家の確保、保育の機会、コミュニティ組織の充実などの項目の低下が相対的に大きく、また、59→平成2年では、幼稚園の施設内容、特殊教育の充実、公園の整備、保育の機会などの項目は低下したが、地価の安定をはじめ、週休2日制・労働時間の短縮、文化遺産・史跡の保護、長期休暇の取得などは比較的に上昇が目立った。

こうした重要度の変化を領域別に整理したのが、表3-1-8である。概して、重要度が低下傾向を示している領域が多く、特に54→59年では全領域が低下し、また、59→平成2年でも「教育」「医療と保健」などの領域で低下した。一方、59→平成2年では上昇傾向を示した領域もみられ、「住宅」「余暇」「文化」などの領域で比較的に上昇が大きかった。

変化の方向（+、-）を示す項目数および平均値の動きからみて、重要度重点の低下の程度が比較的大きかったのは、次の諸領域である。

- 54→59年：「教育」（幼稚園の施設内容が -0.25 、小中高校の施設内容が -0.25 ）
「地域活動」（コミュニティ組織の充実が -0.27 、公民館・集会場の利用機会が -0.26 ）
「社会福祉」（保育の機会が -0.29 ）
- 59→平成2年：「教育」（特殊教育の充実が -0.13 、幼稚園の施設内容が -0.10 ）
「医療」（病気の予防・健康相談が -0.08 、費用の心配のない診療が -0.07 ）

また、全般的に低下傾向が多い中で、重要度が上昇傾向を示しているものとしては、次の諸領域がある。

- 59→平成2年：「住宅」（地価の安定が $+0.17$ ）
「余暇」（週休2日制・労働時間の短縮が $+0.17$ 、長期休暇の取得が $+0.13$ ）
「文化」（文化遺産・史跡の保護が $+0.13$ ）

このように重要度得点は、領域別には上昇、低下と変動があったが、領域間の重要度の順位には大きな変化はなく、「防犯」「安全」「医療と保健」等の領域が常に上位を占めている。その他の領域を含めても、「教育」領域の後退を除けば総体として順位は変わらず、生活の基盤となる領域の重要度が一貫して高い傾向を示している（表3-1-9）。

表3-1-7 重要度の時系列比較

領域	項 目	昭.54年	昭.59年	平.2年	59年-54年	2年-59年
医療と保健	1. 診療・治療の機会	4.71	4.61	4.55	-0.10	-0.06
	2. 費用の心配のない診療	4.54	4.47	4.40	-0.07	-0.07
	3. 病気の予防・健康相談	4.41	4.31	4.23	-0.10	-0.08
	4. 救急医療体制の確保	4.74	4.62	4.60	-0.12	-0.02
教 育	5. 幼稚園の施設内容	4.12	3.87	3.77	-0.25	-0.10
	6. 小・中・高校の施設内容(改)	*4.20	*3.95	3.92	-0.25	-0.03
	7. 大学教育の開放	-	-	3.72	-	-
	8. 各種学校の充実	*3.44	*3.18	3.59	*-0.26	*0.41
	9. 特殊教育の充実	4.27	4.05	3.92	-0.22	-0.13
	10. 図書館・独学施設の整備	3.96	3.77	3.76	-0.19	-0.01
文 化	11. 生涯教育(新)	-	-	3.86	-	-
	12. 文化遺産・史跡の保護	3.96	3.80	3.93	-0.16	0.13
	13. 伝統工芸の振興	3.80	3.59	3.58	-0.21	-0.01
勞 働	14. 失業の不安の解消	4.64	4.50	4.41	-0.14	-0.09
	15. 仕事のやりがい	4.54	4.41	4.32	-0.13	-0.09
	16. 職場の安全確保	4.45	4.29	4.24	-0.16	-0.05
	17. 男女賃金格差の解消	3.93	3.86	3.93	-0.07	0.07
	18. 高齢者・身障者の就業機会	4.08	3.92	3.94	-0.16	0.02
	19. 職業、居住地選択の自由	4.06	3.95	3.96	-0.11	0.01
	20. 転職の機会	3.65	3.53	3.55	-0.12	0.02
	21. 県内就職の機会	3.96	3.93	3.87	-0.03	-0.06
住 宅	22. 職業紹介・訓練の充実(新)	-	-	3.94	-	-
	23. 持家の確保	4.42	4.22	4.28	-0.20	0.06
	24. 公共住宅の整備	3.62	3.42	3.47	-0.20	0.05
	25. 一人一部屋の確保	-	3.73	3.74	-	0.01
	26. 地価の安定	4.14	4.02	4.19	-0.12	0.17
利 便	27. 良好な住宅環境	4.31	4.15	4.16	-0.16	0.01
	28. 住宅の交通の便	4.25	4.06	4.07	-0.19	0.01
	29. 買物の利便	4.10	3.94	3.88	-0.16	-0.06
快 適	30. 情報の得易さ(新)	-	-	3.86	-	-
	31. 上水道の整備	4.63	4.50	4.56	-0.13	0.06
	32. 公園の整備	4.26	4.07	3.94	-0.19	-0.13
	33. ゴミ、下水の衛生処理	4.59	4.50	4.45	-0.09	-0.05
	34. 親しめる自然環境	4.14	3.96	4.06	-0.18	0.10
	35. 緑地の確保	4.23	4.10	4.13	-0.13	0.03
安 全	36. 公害防止の充実	4.48	4.34	4.39	-0.14	0.05
	37. 基地の安全管理の確保	4.38	4.33	4.35	-0.05	0.02
	38. 災害対策の充実	4.53	4.45	4.45	-0.08	0.00
	39. 歩行者の安全確保	4.65	4.53	4.54	-0.12	0.01

表 3 - 1 - 7 重要度の時系列比較 (続)

領域	項 目	昭. 54年	昭. 59年	平. 2年	59年-54年	2年-59年
	40. 交通ルールの遵守	—	4.53	4.50	—	-0.03
消費生活	41. 収入の増加	4.44	4.41	4.35	-0.03	-0.06
	42. 物価の安定	4.65	4.55	4.49	-0.10	-0.06
	43. 年金制度の充実	4.57	4.47	4.51	-0.10	0.04
	44. 税負担の公平さ (新)	—	—	4.38	—	—
	45. 商品苦情相談の充実	3.98	3.83	3.92	-0.15	0.09
余暇	46. 週休 2 日制、労働時間の短縮	3.44	3.40	3.57	-0.04	0.17
	47. 長期休暇の取得	3.49	3.39	3.52	-0.10	0.13
	48. 運動施設の利用機会	3.83	3.61	3.56	-0.22	-0.05
	49. クラブ参加機会	3.54	3.34	3.41	-0.20	0.07
	50. リゾート施設の整備 (新)	—	—	3.11	—	—
防犯	51. 犯罪の防止	4.67	4.64	4.60	-0.03	-0.04
	52. 犯罪検挙の充実	4.68	4.63	4.64	-0.05	0.01
	53. 暴力対策	4.67	4.58	4.54	-0.09	-0.04
	54. 法執行の公正	4.63	4.58	4.54	-0.05	-0.04
社会福祉	55. 親と子の対話	4.66	4.54	4.51	-0.12	-0.03
	56. 青少年の非行防止	4.62	4.49	4.44	-0.13	-0.05
	57. 家事、育児、教育相談の充実	4.16	3.97	3.99	-0.19	0.02
	58. 福祉サービスの充実	4.54	4.37	4.45	-0.17	0.08
	59. 生活保障の確保	4.53	4.34	4.41	-0.19	0.07
	60. 保育の機会	4.08	3.79	3.69	-0.29	-0.10
地域活動	61. 近隣とのつきあい	4.28	4.07	4.05	-0.21	-0.02
	62. 地域行事への参加	3.52	3.29	3.28	-0.23	-0.01
	63. 公民館・集会場の利用機会	3.77	3.51	3.48	-0.26	-0.03
	64. コミュニティ組織の充実	3.78	3.51	3.52	-0.27	0.01
	65. 住民参加	4.35	4.18	4.09	-0.17	-0.09
	66. 福祉活動 (新)	—	—	4.06	—	—

(注) (1) 平成 2 年で新設された項目

大学教育の開放、生涯教育、職業紹介・訓練の充実、情報の得易さ、税負担の公平さ、リゾート施設の整備、福祉活動

(2) 昭和 59 年で新設された項目

一人一部屋の確保、交通ルールの遵守

(3) 昭和 54 年、59 年では調査したが平成 2 年では改訂、削除した項目

小中学校の施設内容、高校の施設内容、教育内容・質の向上、定年制の延長、公衆電話の充実、消費生活の省資源化、円満な夫婦関係

(4) 昭和 54 年、59 年の小中高校の施設内容は、小中校と高校の平均得点

(5) 昭和 54 年、59 年の各種学校の充実は文化領域から移したもの

表3-1-8 領域別にみた重要度の変化

領 域	変化の方向（数学は項目数）						平均得点の増減				
	54 → 59年			59 → 平2年			54年 → 59年 → 2年				
	+	0	-	+	0	-					
医療と保健	0	0	4	0	0	4	4.60	→ 4.50	→ 4.45	-0.10	-0.05
教 育	0	0	4	0	0	4	4.14	→ 3.91	→ 3.84	-0.23	-0.07
文 化	0	0	2	1	0	1	3.88	→ 3.70	→ 3.76	-0.18	0.06
労 働	0	0	8	4	0	4	4.16	→ 4.05	→ 4.03	-0.11	-0.02
住 宅	0	0	4	5	0	0	4.12	→ 3.95	→ 4.03	-0.17	0.08
利 便	0	0	2	1	0	1	4.18	→ 4.00	→ 3.98	-0.18	-0.02
快 適	0	0	6	4	0	2	4.39	→ 4.25	→ 4.26	-0.14	0.01
安 全	0	0	3	2	1	1	4.52	→ 4.44	→ 4.45	-0.11	0.01
消 費 生 活	0	0	4	2	0	2	4.41	→ 4.32	→ 4.32	-0.09	0.00
余 暇	0	0	4	3	0	1	3.58	→ 3.44	→ 3.52	-0.14	0.08
防 犯	0	0	4	1	0	3	4.66	→ 4.61	→ 4.58	-0.05	-0.03
社 会 福 祉	0	0	6	3	0	3	4.43	→ 4.25	→ 4.25	-0.18	0.00
地 域 活 動	0	0	5	1	0	4	3.94	→ 3.71	→ 3.68	-0.23	-0.03
計	0	0	56	27	1	30	4.23	→ 4.09	→ 4.09	-0.14	0.00

注) 平成2年と対応する項目は54年が56項目、59年が58項目である。

表3-1-9 領域別重要度得点の比較（県計）

領 域	今回調査（平2）		2回目（昭59）		1回目（昭54）	
	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点
防 犯	①	4.58	①	4.61	①	4.66
安 全	②	4.46	③	4.46	③	4.52
医療と保健	③	4.45	②	4.50	②	4.60
消 費 生 活	④	4.43	④	4.29	⑤	4.40
快 適	⑤	4.26	⑤	4.25	⑥	4.39
社 会 福 祉	⑥	4.25	⑥	4.22	④	4.45
労 働	⑦	4.02	⑦	3.98	⑨	4.10
住 宅	⑧	3.97	⑨	3.91	⑧	4.12
利 便	⑨	3.94	⑩	3.85	⑩	4.08
文 化	⑩	3.79	⑫	3.53	⑫	3.79
教 育	⑪	3.78	⑧	3.92	⑦	4.16
地 域 活 動	⑫	3.75	⑪	3.71	⑪	3.94
余 暇	⑬	3.43	⑬	3.44	⑬	3.58
県 計		4.06		4.07		4.21

注) 得点は、それぞれの調査時に設定された項目、領域に基づく

2. 生活各面の充足度

県民生活に関する具体的項目（66項目）について、重要度に関して問うたのと同様に、現在それぞれがどの程度充足されているかを、「十分満たされている」「かなり満たされている」「どちらともいえない」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」の5段階に分けて回答を求めた（問2）。集計に当たっては、重要度と同様、各段階に5～1点のウェイトを与え、各項目ごとに平均得点を求めて県民の充足度としての指標としたが、その結果は表3-2-1のとおりである。

項目別に充足度得点をみると、最も低いのは「転職の機会」で、次いで「高齢者・身障者の就業機会」「地価の安定」「職業・居住地選択の自由」等と並んでいるが、一方、高い項目としては「上水道の整備」「買物の利便」「診療治療の機会」「親と子の対話」等となっている。平均得点1位の「上水道の整備」（3.83）から、66位の「転職の機会」（2.22）まで、1.6ポイントの幅に分布しており、最高項目でも「かなり満たされている」をやや下回っている。また、全項目（66項目）の平均得点は2.83で「どちらともいえない」を下回り、総じて低い水準となっている。

領域別にみると（図3-2-1）、「消費生活」「労働」「余暇」「安全」等の充足度が低く、税負担の公平さ、高齢者・身障者の就業機会、長期休暇の取得、歩行者の安全確保等、最近の世相を反映した県民の意識を示しているものとみられる。一方、「医療と保健」「利便」「地域活動」「防犯」等の領域の充足度は相対的に高く、これらの領域に対する県民の充足感がうかがえる。

図3-2-1 充足度得点

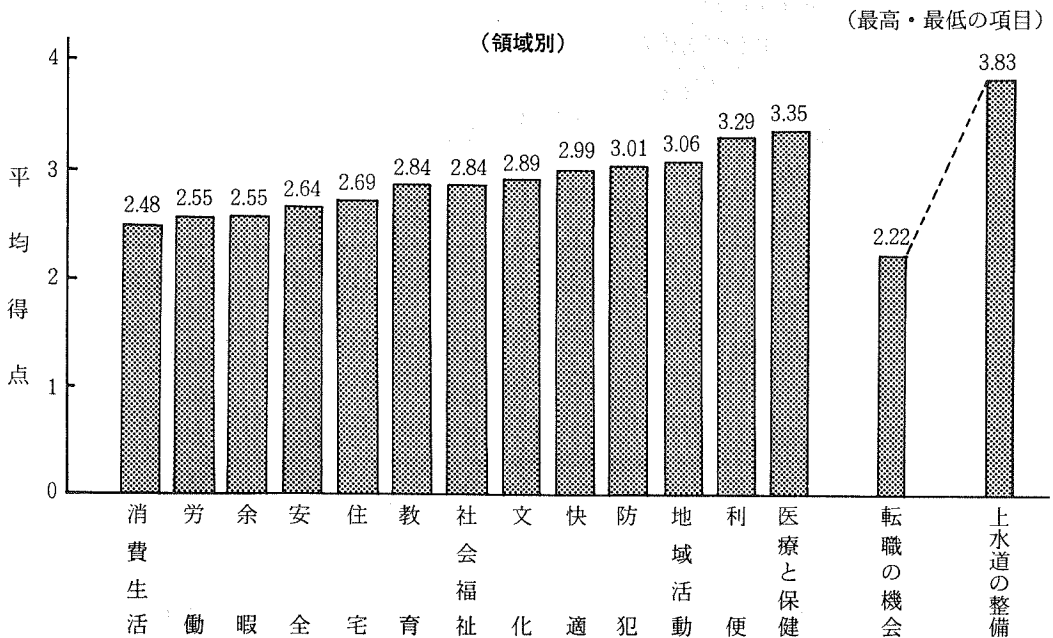


表3-2-1 充足度の平均得点

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	1. 診療・治療の機会	3.55	1.02	28.6	3.35
	2. 費用の心配のない診療	3.18	1.07	33.6	
	3. 病気の予防・健康相談	3.36	0.99	29.6	
	4. 救急医療体制の確保	3.32	0.98	29.4	
教育	5. 幼稚園の施設内容	3.25	0.84	25.9	2.84
	6. 小・中・高校の施設内容 (改)	3.23	0.88	27.2	
	7. 大学教育の開放	2.81	0.91	32.4	
	8. 各種学校の充実	2.40	1.07	44.5	
	9. 特殊教育の充実	2.70	0.96	35.6	
	10. 図書館・独学施設の整備	2.66	1.06	40.0	
文化	11. 生涯教育	2.70	0.98	36.1	2.89
	12. 文化遺産・史跡の保護	3.05	0.90	29.6	
	13. 伝統工芸の振興	2.92	0.85	29.3	
労働	14. 失業の不安の解消	2.46	1.06	43.3	2.55
	15. 仕事のやりがい	2.61	1.08	41.5	
	16. 職場の安全確保	3.17	0.85	26.8	
	17. 男女賃金格差の解消	2.65	1.00	37.6	
	18. 高齢者・身障者の就業機会	2.23	1.00	44.8	
	19. 職業、居住地選択の自由	2.31	1.07	46.3	
	20. 転職の機会	2.22	1.02	45.9	
	21. 県内就職の機会	2.74	1.10	40.3	
	22. 職業紹介・訓練の充実 (新)	2.57	0.95	36.9	
	住宅	23. 持家の確保	2.82	1.33	47.0
24. 公共住宅の整備		2.55	0.96	37.6	
25. 一人一部屋の確保		2.63	1.26	47.8	
26. 地価の安定		2.25	1.08	48.2	
27. 良好な住宅環境		3.19	1.20	37.7	
利便	28. 住宅の交通の便	3.24	1.20	36.9	3.29
	29. 買物の利便	3.56	1.05	29.6	
	30. 情報の得易さ (新)	3.08	0.98	31.7	
快適	31. 上水道の整備	3.83	0.99	25.8	2.99
	32. 公園の整備	2.82	1.19	42.1	
	33. ゴミ、下水の衛生処理	3.09	1.15	37.4	

表3-2-1 充足度の平均得点(続)

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
	34. 親しめる自然環境	2.72	1.22	44.7	
	35. 緑地の確保	2.71	1.13	41.8	
	36. 公害防止の充実	2.79	1.17	41.8	
安全	37. 基地の安全管理の確保	2.55	1.15	45.0	2.64
	38. 災害対策の充実	2.98	0.94	31.5	
	39. 歩行者の安全確保	2.47	1.04	42.3	
	40. 交通ルールへの遵守	2.54	1.03	40.6	
消費生活	41. 収入の増加	2.48	1.04	41.9	2.48
	42. 物価の安定	2.47	0.99	40.2	
	43. 年金制度の充実	2.69	0.97	36.1	
	44. 税負担の公平さ (新)	2.33	0.95	40.8	
	45. 商品苦情相談の充実	2.42	0.90	37.0	
余暇	46. 週休2日制、労働時間の短縮	2.42	1.03	42.6	2.55
	47. 長期休暇の取得	2.34	1.10	46.9	
	48. 運動施設の利用機会	2.74	1.11	40.6	
	49. クラブ参加の機会	2.59	1.01	38.9	
	50. リゾート施設の整備 (新)	2.67	0.98	36.6	
防犯	51. 犯罪の防止	3.12	1.00	32.1	3.01
	52. 犯罪検挙の充実	2.98	0.94	31.5	
	53. 暴力対策	2.91	0.93	32.1	
	54. 法執行の公正	3.01	0.85	38.4	
社会福祉	55. 親と子の対話	3.46	0.92	26.5	2.84
	56. 青少年の非行防止	2.78	1.08	38.8	
	57. 家事、育児、教育相談の充実	2.70	0.89	33.1	
	58. 福祉サービスの充実	2.53	0.91	26.0	
	59. 生活保障の確保	2.58	0.92	35.8	
	60. 保育の機会	3.01	0.93	30.9	
地域活動	61. 近隣とのつきあい	3.38	0.89	26.2	3.06
	62. 地域行事への参加	3.24	0.92	28.3	
	63. 公民館・集会場の利用機会	3.21	1.01	31.5	
	64. コミュニティ組織の充実	3.08	0.91	29.7	
	65. 住民参加	2.70	0.89	32.8	
	66. 福祉活動(新)	2.76	0.86	31.1	
県計		2.83	1.08	38.1	

(1) 充足度の低い項目と高い項目

充足度得点の低い項目、高い項目を、それぞれ15位まで抜き出したのが、表3-2-2、表3-2-3である。

まず、充足度の低い項目をみると、転職の機会、高齢者・身障者の就業機会、職業・居住地選択の自由、失業不安の解消など「労働」領域に関するものや、税負担の公平さ、商品苦情相談の充実、物価の安定、収入の増加など「消費生活」領域に関するものが特に多い。次いで、長期休暇の取得、週休2日制・労働時間の短縮など「余暇」領域に関する項目や、歩行者の安全確保、交通ルールの遵守、基地の安全管理の確保など「安全」領域に関する項目が並んでいる。また地価の安定、各種学校の充実、福祉サービスの充実など住宅や社会教育、社会福祉に関する項目も充足度が低い項目としてあがっている。

表3-2-2 充足度の低い項目

順位	項目番号	項目	得点	領域
1	20.	転職の機会	2.22	労働
2	18.	高齢者・身障者の就業機会	2.23	労働
3	26.	地価の安定	2.25	住宅
4	19.	職業・居住地選択の自由	2.31	労働
5	44.	税負担の公平さ	2.33	消費生活
6	47.	長期休暇の取得	2.34	余暇
7	8.	各種学校の充実	2.40	教育
8	45.	商品苦情相談の充実	2.42	消費生活
9	46.	週休2日制、労働時間の短縮	2.42	余暇
10	14.	失業の不安の解消	2.46	労働
11	39.	歩行者の安全確保	2.47	安全
12	42.	物価の安定	2.47	消費生活
13	41.	収入の増加	2.48	消費生活
14	58.	福祉サービスの充実	2.53	社会福祉
15	40.	交通ルールの遵守	2.54	安全

一方、充足度の比較的高い項目をみると、診療・治療の機会、病気の予防・健康相談、救急医療体制の確保、費用の心配のない診療など「医療と保健」領域に関するものが最も多く、次いで、近隣とのつきあい、地域行事への参加、公民館・集会場の利用機会など「地域活動」領域に関する項目や、買物の利便、住宅の交通の便など「利便」に関する項目、幼稚園の施設内容、小中高校の施設内容など「学校教育」に関する項目が並んでいる。また、上水道の整備、親と子の対話、良好な住宅環境、職場の安全確保なども充足度が高い項目としてあがっている。

こうしてみると、これまで重要な課題とされてきた「医療と保健」、「学校教育」などの分野のほか利便性、快適性についての欲求も、県民の意識の上でかなり充足されてきているものといえよう。

表 3-2-3 充足度の高い項目

順位	項目番号	項目	得点	領域
1	31.	上水道の整備	3.83	快 適
2	29.	買物の利便	3.56	利 便
3	1.	診療・治療の機会	3.55	医 療 と 保 健
4	55.	親と子の対話	3.46	社 会 福 祉
5	61.	近隣とのつきあい	3.38	地 域 活 動
6	3.	病気の予防・健康相談	3.33	医 療 と 保 健
7	4.	救急医療体制の確保	3.32	医 療 と 保 健
8	5.	幼稚園の施設内容	3.25	教 育
9	62.	地域行事への参加	3.24	地 域 活 動
10	28.	住宅の交通の便	3.24	利 便
11	6.	小・中・高校の施設内容	3.23	教 育
12	63.	公民館・集会場の利用機会	3.21	地 域 活 動
13	27.	良好な住宅環境	3.19	住 宅
14	2.	費用の心配のない診療	3.18	医 療 と 保 健
15	16.	職場の安全確保	3.17	労 働

(2) 領域別の比較

次に、全領域の結果を通覧するため、領域ごとの充足度の平均値を算出し、その順位と、上下15位に入った項目数とを並べたのが、表 3-2-4 である。

領域別の平均得点を見ると、「消費生活」領域をはじめ、「労働」「余暇」「安全」などの領域の得点が低く、一方、「医療と保健」領域のほか、「利便」「地域活動」「防犯」などの領域の得点は比較的高くなっている。また、「住宅」から「快適」までのほぼ中位にある領域では、「住宅」「教育」「社会福祉」などの各項目が上位と下位に分布しており項目による変動が大きく、「文化」「快適」はやや充足度が高くなっている。

「消費生活」をはじめとする得点の低い領域は、生活上の実利的な側面が強く、個人差も大きいとみられ、また、「安全」領域では歩行者の安全確保などの非充足もあって、充足度が低くなっているものとみられる。これに比べると、「医療と保健」領域など得点の高い領域は、どちらかといえば生活を取り巻く外的条件にかかわるもので、個人差も比較的に出にくく、充足度が相対的に高くなってきたものといえよう。ちなみに、充足度得点の変動係数をみると、充足度の低い項目は得点のバラシキが大きいという傾向が認められ、属性により項目及び領域の充足度にかかりの差があるものとみられる（図 3-2-1）。

領域別に上下15位に入った項目数を見ると、最も得点の低い「消費生活」領域では、5項目中4項目が下位15位に入った項目で占め、次いで「労働」が9項目中4、「余暇」が5項目中2、「安全」が4項目中2となっているが、得点が最も高い「医療と保健」領域では、4項目中全部が上位15位に入った項目で占めたほか、「利便」が3項目中2、「地域活動」が6項目中3となっている。平均得点が最下位の「消費生活」領域と1位の「医療と保健」領域では、平均得点で0.87

の開きがあり、また、その他の領域も含め、領域の平均得点の大小と上下15位に入った項目数の間には一定の関係もみられ、領域間の充足度に差があるものと認められる。

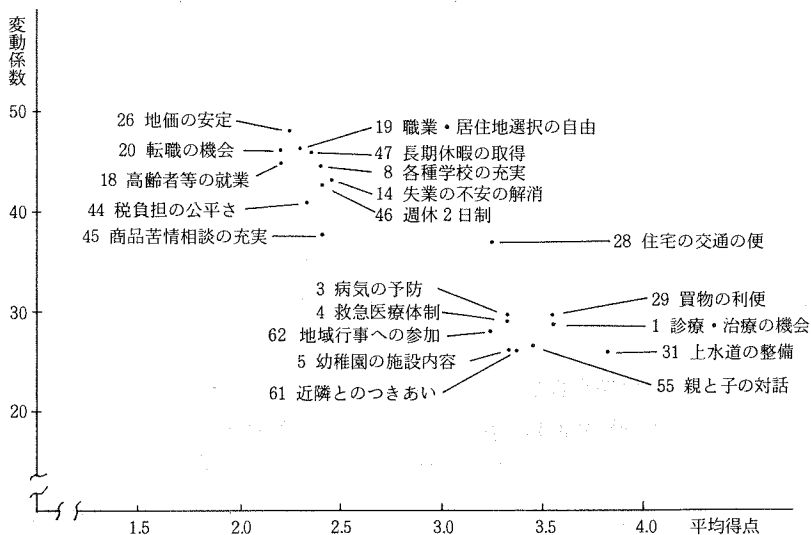
こうしてみると、「医療と保健」や「利便」の領域では、かなり充足度が高くなったが、県民の日常生活と直接かかわりの深い「消費生活」や「労働」などの領域はいまだ低く、特に、属性により項目間の充足度には差が大きく、属性にあった施策対応が必要とされよう。

表 3-2-4 領域別にみた充足度

領域	領域ごと の平均 得点	同 左 の 順 位	上 位 15 位 に 入 っ た 項 目 数	下 位 15 位 に 入 っ た 項 目 数
消費生活	2.48	⑬		4/5
労働	2.55	⑫	1/9	4/9
余暇	2.55	⑪		2/5
安全	2.64	⑩		2/4
住宅	2.69	⑨	1/5	1/5
教育	2.84	⑧	2/6	1/6
社会福祉	2.84	⑦	1/6	1/6
文化	2.89	⑥		
快適	2.99	⑤	1/6	
防犯	3.01	④		
地域活動	3.06	③	3/6	
利便	3.29	②	2/3	
医療と保健	3.35	①	4/4	

(分母の数字は各領域の項目数)

図 3-2-1 充足度の平均得点と変動係数



(3) 地域別の充足度

次に、地域別の平均得点をみると（表3-2-5）、八重山地域は、「住宅」「快適」を除く10の領域で全体の平均値を下回り、特に「消費生活」「余暇」「利便」「教育」などの水準が低く、全体として充足度が最も低い地域となった。また、那覇地域も「住宅」「地域活動」などがかなり低い水準にあり、全体的には八重山地域に次いで低い充足水準となっている。一方、北部地域は1位となった領域が多く、全体として充足度が最も高い地域となり、また、宮古地域も「住宅」「防犯」が突出して高く、全体的には北部地域に次いで高い充足度であった。なお、中部、南部地域は全領域にわたって中位の得点で、全体的にも充足度は中位の水準となっている。

これを地域別の項目順位（低い順）でみると（表3-2-6）、平均得点が最も低いのは、北部と宮古、八重山が各種学校の充実、中部と那覇が地価の安定、南部が転職の機会となっている。また、2番目に低いのは、北部と中部が転職の機会、那覇と宮古が高齢者・身障者の就業機会となっているが、南部が各種学校の充実、八重山が収入の増加と、かなり異なった状況となっている。このように、域内の非充足順位は、中部、那覇地域とその他の地域とは異なる状況がみられ、中部と那覇が県計と同じく、転職の機会、高齢者等の就業機会、地価の安定が1～3位の低い充足度であったのに対し、北部や南部、宮古、八重山では各種学校の充実がそろって低い充足度となっている。特に、八重山は収入の増加が2位（低い順）と目立って低く、また、宮古では地価の安定が30位（低い順）と、比較的に充足度が高い状況となっている。

また、地域の項目順位を県計の順位と比べてみると、充足度得点が最も低い八重山地域では、収入の増加をはじめ、クラブ参加の機会、ゴミ、下水の衛生処理などの項目の充足度が相対的に低く、逆に、税負担の公平さ、基地の安全管理の確保、親しめる自然環境などは高くなっている。また、那覇地域では、リゾート施設の整備、親しめる自然環境、持家の確保などの充足度が相対的に低い反面、各種学校の充実などの項目は比較的高い状況にある。一方、充足度得点が最も高い北部地域では、各種学校の充実、クラブ参加の機会などの充足度は相対的に低かったが、歩行者の安全確保をはじめ、リゾート施設の整備、緑地の確保、親しめる自然環境など、比較的に高くなった項目が多くなっている。また、宮古地域では、各種学校の充実、伝統工芸の振興、ゴミ、下水の衛生処理などの充足度は低いですが、地価の安定をはじめ、持家の確保、歩行者の安全確保、親しめる自然環境などの項目で充足度が高くなっている。その他、中部地域では、基地の安全管理の確保、公害防止の充実、緑地の確保、親しめる自然環境などの充足度が低く、また、南部地域では、図書館・独学施設、生涯教育などの項目が相対的に低い充足度となっている。なお、南部地域では、基地の安全管理の確保や歩行者の安全確保などが比較的に高い充足度となっている。

以上のように、生活各方面に対する充足度は、地域によって異なる状況にあるが、総じてみると、八重山が収入の増加についての充足度の低さが目立ち、那覇においては地価の安定や労働領域の充足度が相対的に低くなっている。一方、北部と宮古においては、歩行者の安全確保、リゾート施設及び自然環境などの整備充足を反映して、全体的に充足度が高くなっている。

表3-2-5 領域別、地域別充足度得点

領 域	北 部	中 部	那 覇	南 部	宮 古	八重山	県 計
医 療 と 保 健	3.39①	3.35③	3.36②	3.35③	3.26⑤	3.19⑥	3.35
教 育	2.76⑤	2.85③	2.94①	2.80④	2.87②	2.59⑥	2.84
文 化	2.98②	2.88④	2.94③	2.81⑤	2.73⑥	2.99①	2.89
労 働	2.63①	2.56③	2.57②	2.52④	2.44⑥	2.47⑤	2.55
住 宅	2.85②	2.70⑤	2.51⑥	2.74④	3.04①	2.75③	2.69
利 便	3.17⑤	3.27③	3.46①	3.18④	3.30②	3.08⑥	3.29
快 適	3.33①	2.94⑤	2.89⑥	3.02④	3.23②	3.09③	2.99
安 全	3.12①	2.56⑤	2.56⑤	2.73③	2.96②	2.63④	2.64
消 費 生 活	2.61①	2.55②	2.46③	2.46③	2.43⑤	2.30⑥	2.48
余 暇	2.63②	2.58③	2.94①	2.51④	2.51④	2.30⑥	2.55
防 犯	3.09②	2.95⑥	2.97⑤	3.08③	3.21①	3.07④	3.01
社 会 福 祉	2.92①	2.84③	2.79⑥	2.89②	2.84③	2.82⑤	2.84
地 域 活 動	3.25①	3.12③	2.85⑥	3.18②	3.05④	2.95⑤	3.06
計	2.93①	2.82④	2.79⑤	2.84③	2.86②	2.74⑥	2.83

注) ○内は領域別の地域順位

表3-2-6 充足度得点順位表（低い順位）

県 計 項 目	順位	地 域 別						
		北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	
20. 転職の機会	1	2	2	3	1	9	8	
18. 高齢者・身障者の就業機会	2	3	3	2	3	2	3	
26. 地価の安定	3	7	1	1	6	30	6	
19. 職業、居住地選択の自由	4	4	4	8	5	5	10	
44. 税負担の公平さ	5	6	6	4	7	7	14	
47. 長期休暇の取得	6	12	5	6	4	12	5	
8. 各種学校、専修学校の充実	7	1	13	31	2	1	1	
45. 商品苦情相談の充実	8	5	12	14	9	3	4	
46. 週休2日制、労働時間の短縮	9	7	9	12	8	4	12	
14. 失業の不安の解消	10	9	11	16	12	11	20	
39. 歩行者の安全確保	11	29	7	5	24	34	15	
42. 物価の安定	12	15	10	20	11	18	7	
41. 収入の増加	13	17	14	18	13	8	2	
58. 福祉サービスの充実	14	16	15	15	17	20	23	
40. リゾート施設の整備	15	32	16	9	21	32	18	
37. 基地の安全管理の確保	16	27	8	19	25	39	39	
24. 公共住宅の整備	17	18	17	11	20	24	36	
22. 職業紹介・訓練の充実	18	13	21	29	15	6	11	
59. 生活保障の確保	19	20	20	13	23	27	29	
49. クラブ参加の機会	20	10	35	24	19	15	9	
15. 仕事のやりがい	21	21	23	27	14	21	26	
25. 一人一部屋の確保	22	19	27	17	22	36	27	
17. 男女賃金格差の解消	23	28	24	26	28	14	21	
10. 図書館・独学施設の整備	24	11	26	42	10	25	16	
50. リゾート施設の整備	25	22	31	33	16	10	17	
43. 年金制度の充実	26	35	29	22	27	31	35	
9. 特殊教育の充実	27	14	18	32	31	17	28	
65. 住民参加	28	30	35	25	30	13	22	
57. 家事、育児、教育相談の充実	29	23	30	34	26	16	25	
11. 生涯教育	30	25	32	36	18	19	32	
35. 緑地の確保	31	55	22	10	40	43	45	
34. 親しかる自然環境	32	65	18	7	38	62	62	
48. 運動施設の利用機会	33	34	37	21	39	40	19	

表3-2-6 充足度得点順位表（低い順位）（続き）

県 計		地 域 別						
項 目	順位	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	
21. 県内就職の機会	34	29	33	37	29	23	38	
66. 福祉活動	35	31	36	30	34	33	33	
56. 保育の機会	36	40	34	28	42	35	31	
36. 公害防止の充実	37	48	19	35	41	57	57	
7. 大学教育の開放	38	33	38	41	36	28	30	
32. 公園の整備	39	24	40	43	32	22	13	
23. 持家の確保	40	36	42	23	33	56	37	
53. 暴力対策	41	47	39	40	47	45	44	
13. 伝統工芸の振興	42	38	41	48	35	26	51	
52. 犯罪検挙の充実	43	39	44	44	49	52	46	
38. 災害対策の充実	44	44	43	51	44	49	40	
60. 保育の機会	45	41	46	46	46	41	58	
54. 法執行の公正	46	42	45	49	45	44	48	
12. 文化遺産・史跡の保護	47	47	47	50	48	38	52	
64. コミュニティ組織の充実	48	51	55	38	52	37	42	
30. 情報の得易さ	49	37	49	54	43	42	49	
33. ゴミ、下水の衛生処理	50	46	53	57	37	29	24	
51. 犯罪の防止	51	52	48	52	54	60	50	
16. 職場の安全確保	52	49	52	56	50	47	53	
2. 費用の心配のない診療	53	56	50	53	53	59	43	
27. 良好な住宅環境	54	59	51	45	59	64	61	
63. 公民館・集会場の利用機会	55	63	61	39	62	51	41	
6. 小・中・高校の施設内容	56	50	54	59	55	55	47	
28. 住宅の交通の便	57	45	56	62	51	48	34	
62. 地域行事への参加	58	61	58	47	60	53	59	
5. 幼稚園の施設内容	59	54	57	55	56	50	54	
4. 救急医療体制の確保	60	53	59	61	58	46	55	
3. 病気予防・健康相談	61	62	60	60	57	58	56	
61. 近隣とのつきあい	62	64	62	58	63	63	65	
55. 親と子の対話	63	57	63	63	64	61	64	
1. 診療・治療の機会	64	60	45	64	65	54	60	
29. 買物の利便	65	58	64	66	61	65	63	
31. 上水道の整備	66	66	66	65	66	66	66	

(4) 充足度の時系列比較

次に、充足度の水準が昭和54年、59年と比べてどのように変化したのかを見るため、時系列比較し、その変化の方向を整理したのが、表3-2-7である。なお、前述のとおり、具体的項目に変更があったため、66項目中56項目（59年は58項目）について、比較が可能である。

全体を通覧すると、充足度の変動は重要度と同様に、概して小さく、54→59年が+35~-0.09、59→平成2年が+0.30~-0.13程度の得点幅となっている。また、変化の方向についてみると、54→59年では56項目中、上昇して項目が49、低下した項目が7、59→平成2年では58項目中、上昇した項目が38、低下した項目が17と、いずれも上昇した項目が多くなっている。このように全体的に充足度は上昇傾向となっており、特に、物価の安定、病気の予防・健康相談、収入の増加、失業の不安の解消などの項目で充足度の高まりが目立った。しかし、地価の安定、特殊教育の充実、親しめる自然環境などの項目では、最近低下傾向を示し、県民の関心が大きくなっているものといえよう。

こうした充足度の動向を領域別に整理したのが、表3-2-8である。概して、充足度が上昇傾向を示している領域が多く、特に54→59年では全領域が上昇し、また、59→平成2年でも「医療と保健」「消費生活」「利便」などの領域で上昇が大きくなっている。一方、59→平成2年では低下傾向を示した項目もみられ、「教育」「住宅」などの領域で若干低下した。

変化の方向（+、-）を示す項目数および平均値の動きからみて、充足度の上昇の程度が比較的大きかったのは、次の諸領域である。

○ 54→59年：「防犯」（犯罪の防止が+0.26、暴力対策が+0.16）

「教育」（図書館・独学施設の整備が+0.22）

「医療と保健」（診療・治療の機会が+0.18、救急医療体制の確保が+0.16）

○ 59→平成2年：「医療と保健」（病気の予防・健康相談が+0.25）

「消費生活」（物価の安定が+0.30、収入の増加が+0.20）

「利便」（買物の利便が+0.18）

一方、こうした充足度の上昇傾向の中で、59→平成2年では「社会福祉」の領域で低下傾向を示す項目が特に多くなった。その内容をみると、親と子の対話から生活保障の確保までの5項目が非充足の方向に動いており、充足度が増したのは保育の機会の1項目だけであった。

このように充足度得点は、領域別に上昇、低下と変動があったが、領域間の充足度の順位には大きな変化はなく、若干の順位の入れ替えにとどまっている。13領域の順位を整理すると、表3-2-9のとおりであるが、「消費生活」「労働」「余暇」「安全」などの領域が一貫して充足度は低く、反面、「医療と保健」「防犯」「文化」などの領域は着実に充足度が高まってきた状況にある。

表 3 - 2 - 7 充足度の時系列比較

領域	項 目	昭. 54年	昭. 59年	平. 2年	59年-54年	2年-59年
医療と保健	1. 診療・治療の機会	3.21	3.39	3.55	0.18	0.16
	2. 費用の心配のない診療	3.01	3.04	3.18	0.03	0.15
	3. 病気の予防・健康相談	3.01	3.11	3.36	0.10	0.25
	4. 救急医療体制の確保	3.03	3.19	3.32	0.16	0.13
教 育	5. 幼稚園の施設内容	3.13	3.24	3.25	0.11	0.01
	6. 小・中・高校の施設内容(改)	*3.10	*3.24	3.23	0.14	-0.01
	7. 大学教育の開放	-	-	2.81	-	-
	8. 各種学校の充実	*2.38	*2.43	2.40	0.05	-0.03
	9. 特殊教育の充実	2.68	2.82	2.70	0.14	-0.12
	10. 図書館・独学施設の整備	2.42	2.64	2.66	0.22	0.02
文 化	11. 生涯教育	-	-	2.70	-	-
	12. 文化遺産・史跡の保護	2.91	2.95	3.05	0.04	0.10
	13. 伝統工芸の振興	2.83	2.87	2.92	0.04	0.05
労 働	14. 失業の不安の解消	2.23	2.27	2.46	0.04	0.19
	15. 仕事のやりがい	2.44	2.59	2.61	0.15	0.02
	16. 職場の安全確保	3.09	3.18	3.17	0.09	-0.01
	17. 男女賃金格差の解消	2.59	2.66	2.65	0.07	-0.01
	18. 高齢者・身障者の就業機会	2.12	2.23	2.23	0.11	0.00
	19. 職業、居住地選択の自由	2.24	2.31	2.31	0.07	0.00
	20. 転職の機会	2.14	2.18	2.22	0.04	0.04
	21. 県内就職の機会	2.65	2.71	2.74	0.06	0.03
22. 職業紹介・訓練の充実(新)	-	-	2.57	-	-	
住 宅	23. 持家の確保	2.91	2.90	2.82	-0.01	-0.08
	24. 公共住宅の整備	2.51	2.54	2.55	0.03	0.01
	25. 一人一部屋の確保	-	2.67	2.63	-	0.04
	26. 地価の安定	2.31	2.38	2.25	0.07	-0.13
	27. 良好な住宅環境	3.16	3.10	3.19	-0.06	0.09
利 便	28. 住宅の交通の便	3.11	3.14	3.24	0.03	0.10
	29. 買物の利便	3.36	3.38	3.56	0.02	0.18
	30. 情報の得易さ(新)	-	-	3.08	-	-
快 適	31. 上水道の整備	3.91	3.88	3.83	-0.03	-0.05
	32. 公園の整備	2.46	2.65	2.82	0.19	0.17
	33. ゴミ、下水の衛生処理	2.96	3.03	3.09	0.07	0.06

表3-2-7 充足度の時系列比較(続)

領域	項目	昭.54年	昭.59年	平.2年	59年-54年	2年-59年
	34. 親しめる自然環境	2.82	2.84	2.72	0.02	-0.12
	35. 緑地の確保	2.55	2.63	2.71	0.08	0.08
	36. 公害防止の充実	2.73	2.75	2.79	0.02	0.04
安全	37. 基地の安全管理の確保	2.59	2.60	2.55	0.01	0.05
	38. 災害対策の充実	2.88	2.96	2.98	0.08	0.02
	39. 歩行者の安全確保	2.26	2.45	2.47	0.19	0.02
	40. 交通ルールの遵守	-	2.49	2.54	-	0.05
消費生活	41. 収入の増加	2.37	2.28	2.48	-0.09	0.20
	42. 物価の安定	1.82	2.17	2.47	0.35	0.30
	43. 年金制度の充実	2.58	2.60	2.69	0.02	0.09
	44. 税負担の公平さ (新)	-	-	2.33	-	-
	45. 商品苦情相談の充実	2.21	2.36	2.42	0.15	0.06
余暇	46. 週休2日制、労働時間の短縮	2.30	2.36	2.42	0.06	0.06
	47. 長期休暇の取得	2.44	2.39	2.34	-0.05	-0.05
	48. 運動施設の利用機会	2.42	2.62	2.74	0.20	0.12
	49. クラブ参加の機会	2.29	2.50	2.59	0.21	0.09
	50. リゾート施設の整備 (新)	-	-	2.67	-	-
防犯	51. 犯罪の防止	2.84	3.10	3.12	0.26	0.02
	52. 犯罪検挙の充実	2.73	2.85	2.98	0.12	0.13
	53. 暴力対策	2.67	2.83	2.91	0.16	0.08
	54. 法執行の公正	2.91	3.01	3.01	0.10	0.00
社会福祉	55. 親と子の対話	3.43	3.47	3.46	0.04	-0.01
	56. 青少年の非行防止	2.70	2.79	2.78	0.09	-0.01
	57. 家事、育児、教育相談の充実	2.60	2.71	2.70	0.11	-0.01
	58. 福祉サービスの充実	2.43	2.57	2.53	0.14	-0.04
	59. 生活保障の確保	2.46	2.60	2.58	0.14	-0.02
	60. 保育の機会	2.76	2.91	3.01	0.15	0.10
地域活動	61. 近隣とのつきあい	3.50	3.44	3.38	-0.06	-0.06
	62. 地域行事への参加	3.32	3.29	3.24	-0.03	-0.05
	63. 公民館・集会場の利用機会	3.12	3.20	3.21	0.08	0.01
	64. コミュニティ組織の充実	3.05	3.09	3.08	0.04	-0.01
	65. 住民参加	2.56	2.65	2.70	0.09	0.05
	66. 福祉活動 (新)	-	-	2.76	-	-

注) 表3-1-7と同じ要領で作成

表 3-2-8 領域別にみた充足度の変化

領 域	変化の方向（数学は項目数）						平均得点の増減		
	54 → 59年			59 → 平2年			54年 → 59年 → 2年		
	+	0	-	+	0	-			
医療と保健	4	0	0	4	0	0	3.07	→ 3.18	→ 3.35
教 育	4	0	0	2	0	2	2.83	→ 2.99	→ 2.96
文 化	2	0	0	2	0	0	2.87	→ 2.91	→ 2.99
労 働	8	0	0	4	2	2	2.44	→ 2.52	→ 2.55
住 宅	2	0	2	3	0	2	2.72	→ 2.73	→ 2.70
利 便	2	0	0	2	0	0	3.24	→ 3.26	→ 3.40
快 適	5	0	1	4	0	2	2.91	→ 2.66	→ 2.99
安 全	3	0	0	4	0	0	2.58	→ 2.67	→ 2.67
消 費 生 活	3	0	1	4	0	0	2.25	→ 2.35	→ 2.52
余 暇	3	0	1	3	0	1	2.36	→ 2.47	→ 2.52
防 犯	4	0	0	3	1	0	2.79	→ 2.95	→ 3.01
社 会 福 祉	6	0	0	1	0	5	2.73	→ 2.84	→ 2.84
地 域 活 動	3	0	2	2	0	3	3.11	→ 3.13	→ 3.12
計	49	0	7	38	3	17	2.76	→ 2.84	→ 2.89

注) 平成2年と対応する項目は、54年が56項目、59年が58項目である。

表 3-2-9 領域別充足度得点の比較（県計）

領 域	今回調査（平2）		2回目（昭59）		1回目（昭54）	
	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点
消 費 生 活	⑬	2.48	⑬	2.41	⑬	2.31
労 働	⑫	2.55	⑪	2.54	⑪	2.46
余 暇	⑪	2.55	⑫	2.47	⑫	2.36
安 全	⑩	2.64	⑩	2.63	⑩	2.58
快 適	⑨	2.69	⑨	2.72	⑧	2.72
教 育	⑧	2.84	④	3.03	④	2.99
社 会 福 祉	⑦	2.84	⑦	2.95	⑥	2.85
文 化	⑥	2.89	⑧	2.75	⑨	2.64
快 適	⑤	2.79	⑤	2.96	⑤	2.91
防 犯	④	3.01	⑥	2.95	⑦	2.79
地 域 活 動	③	3.06	③	3.13	⑦	3.11
利 便	②	3.29	①	3.21	②	3.10
医 療 と 保 健	①	3.35	②	3.18	③	3.09
県 計		2.83		3.82		2.76

注) 得点は、それぞれの調査時に設定された項目、領域に基づく

3. 生活各面のニーズ

これまで、県民生活に関する具体的項目について、その重要度と充足度をみてきたが、重要度が高いにもかかわらず充足されていない項目ほど、県民のニーズが高いものといえよう。こうした観点から、「重要度得点」と「未充足度得点」の積を求めて、これを各項目のニーズの強さを示すニーズ得点とした。ニーズ得点は、具体的には「まったく重要でない」（1点）項目で「十分満たされている」（1点）場合には1点、「ひじょうに重要である」（5点）項目で「まったく満たされていない」（5点）場合には25点というように計算される。各項目のニーズ得点は表3-3-1のとおりである。

項目別にニーズ得点をみると、最も高いのは「税負担の公平さ」で、次いで「歩行者の安全確保」「物価の安定」「地価の安定」「失業の不安の解消」等と続いているが、一方、低い項目としては、「地域行事への参加」「買物の利便」「公民館・集会場の利用機会」等となっている。

ニーズ得点1位の「税負担の公平さ」（16.21）から、66位の「地域行事への参加」（8.89）まで、7.32ポイントの幅に分布し、最低の項目でも「どちらともいえない」の平均的なニーズ得点に近い水準となっている。また、全項目（66項目）の平均得点は12.89で、総体として県民の生活項目へのニーズがかなり強いことを示している。

領域別にみると（図3-3-1）、「消費生活」領域に対するニーズが最も強く、次いで「安全」「労働」「防犯」領域と続き、一方、「地域活動」「利便」「文化」等の領域に対するニーズは、相対的に弱い状況となっている。

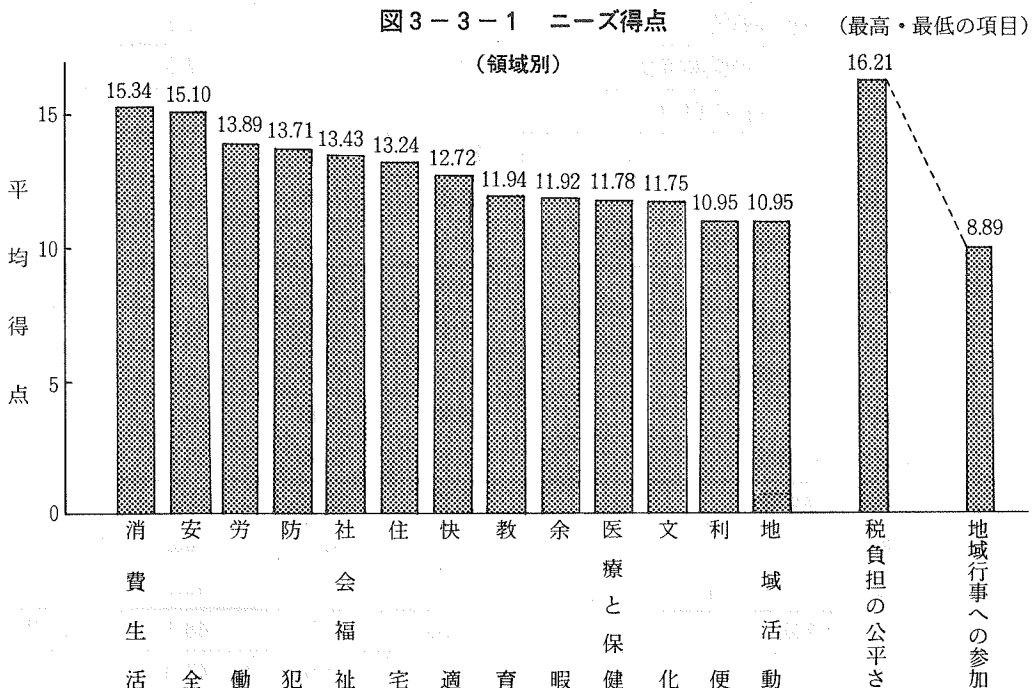


表 3-3-1 ニーズ得点

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	1. 診療・治療の機会	11.06	4.93	44.6	11.78
	2. 費用の心配のない診療	12.44	5.46	43.9	
	3. 病気の予防・健康相談	11.21	4.63	41.3	
	4. 救急医療体制の確保	12.31	4.92	40.0	
教育	5. 幼稚園の施設内容	10.29	4.33	42.1	11.94
	6. 小・中・高校の施設内容 (改)	10.82	4.52	41.8	
	7. 大学教育の開放	11.93	5.09	42.6	
	8. 各種学校の充実	13.05	5.85	44.8	
	9. 特殊教育の充実	12.96	5.20	40.1	
	10. 図書館・独学施設の整備	12.58	5.51	43.8	
文化	11. 生涯教育	12.70	5.04	39.7	11.75
	12. 文化遺産・史跡の保護	11.55	4.46	38.6	
	13. 伝統工芸の振興	11.00	4.30	39.1	
労働	14. 失業の不安の解消	15.75	5.89	37.4	13.89
	15. 仕事のやりがい	14.65	5.68	38.8	
	16. 職場の安全確保	11.95	4.41	36.9	
	17. 男女賃金格差の解消	13.22	5.53	41.8	
	18. 高齢者・身障者の就業機会	15.01	5.60	37.3	
	19. 職業、居住地選択の自由	14.68	5.87	40.0	
	20. 転職の機会	13.55	5.61	41.4	
	21. 県内就職の機会	12.63	5.76	45.6	
22. 職業紹介・訓練の充実 (新)	13.56	5.23	38.6		
住宅	23. 持家の確保	13.65	6.71	49.2	13.24
	24. 公共住宅の整備	12.12	5.55	45.8	
	25. 一人一部屋の確保	12.70	6.42	50.6	
	26. 地価の安定	15.91	6.43	40.5	
	27. 良好な住宅環境	11.80	5.90	50.0	
利便	28. 住宅の交通の便	11.22	5.71	50.9	10.59
	29. 買物の利便	9.35	4.72	50.5	
	30. 情報の得易さ (新)	11.20	4.71	42.1	
快適	31. 上水道の整備	9.86	4.75	48.1	12.72
	32. 公園の整備	12.52	5.88	47.0	
	33. ゴミ、下水の衛生処理	12.96	5.72	44.2	

表 3-3-1 ニーズ得点 (続)

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
	34. 親しめる自然環境	13.25	5.94	44.8	
	35. 緑地の確保	13.61	5.70	41.9	
	36. 公害防止の充実	14.14	6.03	42.7	
安全	37. 基地の安全管理の確保	15.23	6.48	42.5	15.10
	38. 災害対策の充実	13.46	4.96	36.9	
	39. 歩行者の安全確保	16.12	5.62	34.9	
	40. 交通ルールの遵守	15.57	5.47	35.1	
消費生活	41. 収入の増加	15.39	5.70	37.0	15.34
	42. 物価の安定	15.96	5.41	33.9	
	43. 年金制度の充実	14.99	5.35	35.7	
	44. 税負担の公平さ (新)	16.21	5.61	34.6	
	45. 商品苦情相談の充実	14.13	5.26	37.2	
余暇	46. 週休2日制、労働時間の短縮	12.96	5.95	45.9	11.92
	47. 長期休暇の取得	12.99	6.02	46.3	
	48. 運動施設の利用機会	11.61	5.39	46.4	
	49. クラブ参加の機会	11.59	5.11	44.1	
	50. リゾート施設の整備 (新)	10.45	4.96	47.5	
防犯	51. 犯罪の防止	13.24	5.12	38.6	13.71
	52. 犯罪検挙の充実	14.01	4.88	34.8	
	53. 暴力対策	14.04	4.88	34.7	
	54. 法執行の公正	13.56	4.54	33.5	
社会福祉	55. 親と子の対話	11.38	4.44	39.0	13.43
	56. 青少年の非行防止	14.32	5.57	38.9	
	57. 家事、育児、教育相談の充実	13.16	4.89	37.1	
	58. 福祉サービスの充実	15.50	5.06	32.6	
	59. 生活保障の確保	15.16	5.18	34.2	
	60. 保育の機会	11.05	5.05	45.7	
地域活動	61. 近隣とのつきあい	10.44	4.08	39.1	10.95
	62. 地域行事への参加	8.89	3.87	43.5	
	63. 公民館・集会場の利用機会	9.51	4.27	44.9	
	64. コミュニティ組織の充実	10.13	4.22	41.6	
	65. 住民参加	13.56	4.86	35.8	
	66. 福祉活動 (新)	13.17	4.56	34.6	
県 計		12.89	5.59	43.37	

(1) ニーズ得点の高い項目と低い項目

ニーズ得点の高い項目、低い項目を、それぞれ15位まで順に抜き出したのが、表3-3-2、表3-3-3である。

まず、ニーズ得点の高い項目をみると、税負担の公平さ、物価の安定、収入の増加、年金制度の充実など「消費生活」領域に関するものをはじめ、歩行者の安全確保、交通ルールの遵守、基地の安全管理の確保など「安全」領域に関するもの、失業の不安の解消、高齢者・身障者の就業機会、職業及び居住地選択の自由、仕事のやりがいなど「労働」領域に関するものが多くなっている。「消費生活」領域については、重要度が比較的高い割に充足度が低く、結果としてニーズが強く出ているものとみられ、「安全」領域についても、重要度が高く、かつ交通事故の多さなどを反映して充足度が低いためニーズが強くなっているものとみられている。また、「労働」領域については、重要度は相対的にそれほど高くないが、失業の不安の解消や高齢者・身障者の就業機会、職業・居住地選択の自由などの充足度が低く、ニーズがかなり強くなっているものとみられる。

以上の他、ニーズ得点が高い項目をあげると、地価の安定、福祉サービスの充実、生活保障の確保、青少年の非行防止などがあり、これらを見ると、県民の生活上の関心が、基礎的な生活環境施設や医療施設の整備などから、公平な消費生活や生命・身体の安全及び労働、福祉面と一層多様で高次の問題へ向けられていることがうかがえる。

表3-3-2 ニーズ得点の高い項目

順位	領 域	項目番号	項 目	得点
1	消 費 生 活	44.	税負担の公平さ	16.21
2	安 全	39.	歩行者の安全確保	16.12
3	消 費 生 活	42.	物価の安定	15.96
4	住 宅	26.	地価の安定	15.91
5	労 働	14.	失業の不安の解消	15.75
6	安 全	40.	交通ルールの遵守	15.57
7	社 会 福 祉	58.	福祉サービスの充実	15.50
8	消 費 生 活	41.	収入の増加	15.39
9	安 全	37.	基地の安全管理の確保	15.23
10	社 会 福 祉	59.	生活保障の確保	15.16
11	労 働	18.	高齢者・身障者の就業機会	15.01
12	消 費 生 活	43.	年金制度の充実	14.99
13	労 働	19.	職業、居住地選択の自由	14.68
14	労 働	15.	仕事のやりがい	14.65
15	社 会 福 祉	56.	青少年の非行防止	14.32

一方、ニーズ得点の低い項目を見ると、地域行事への参加、公民館・集会場の利用機会、コミュニティ組織の充実、近隣とのつきあいなど「地域活動」領域に関するものが多く、次いで、買物

の利便、情報の得易さ、住宅の交通の便など「利便」領域のもの、幼稚園の施設内容、小中高校の施設内容など「教育」領域のもの、診療・治療の機会、病気予防・健康相談など「医療と保健」領域のものが多くなっている。また、これらの他、上水道の整備、リゾート施設整備、伝統工芸の振興、保育の機会などの項目があがっているが、「教育」や「医療と保健」領域のように既に充足度がかかなり高くなっているものと、「地域活動」領域のように充足度は未だ高くないが重要度が低い水準にあるためにニーズ得点が低い段階にとどまっているものとに分けることができる。

表 3-3-3 ニーズ得点の低い項目

順位	領 域	項目番号	項 目	得 点
1	地 域 活 動	62.	地域行事への参加	8.89
2	利 便	29.	買物の利便	9.35
3	地 域 活 動	63.	公民館・集会場の利用機会	9.51
4	快 適	31.	上水道の整備	9.86
5	地 域 活 動	64.	コミュニティ組織の充実	10.13
6	教 育	5.	幼稚園の施設内容	10.29
7	地 域 活 動	61.	近隣とのつきあい	10.44
8	余 暇	50.	リゾート施設の整備	10.45
9	教 育	6.	小中高校の施設内容	10.82
10	文 化	13.	伝統工芸の振興	11.00
11	社 会 福 祉	60.	保育の機会	11.05
12	医 療 と 保 健	1.	診療・治療の機会	11.06
13	利 便	30.	情報の得易さ	11.20
14	医 療 と 保 健	3.	病気予防・健康相談	11.21
15	利 便	28.	住宅の交通の便	11.22

(2) 領域別の比較

次に、全領域の結果を通覧するため、領域ごとのニーズ得点の平均値を算出し、その順位と、上下15位に入った項目数を並べたのが、表 3-3-4 である。

領域別の得点順位をみると、1位が「消費生活」領域、2位が「安全」、3位が「労働」、4位が「防犯」、5位が「社会福祉」と続き、逆に、得点の低いのは「地域活動」「利便」「文化」「医療と保健」などの領域となっている。得点の最も高い「消費生活」領域では、消費税問題の影響などから、税負担の公平さに対するニーズの強さが目立ち、また、物価の安定に対するニーズも高く、2位の「安全」の領域では、交通事故の多さを反映して、歩行者の安全確保に対するニーズが極めて強くなっている。また、3位の「労働」の領域では、本県の厳しい労働事情から失業の不安の解消に対するニーズが相当高くなっており、これら領域に対する県民のニーズの強さがうかがえる。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の高い「消費生活」領域では、5項目中4項目が上位15位だった項目で占め、次いで「安全」が4項目中3、「労働」が9項目中4となっ

ているが、得点が最下位の「地域活動」、「利便」領域では、それぞれ下位15位に入った項目が多くを占めたほか、「文化」が3項目中1、「医療と保健」が4項目中2となっている。平均得点が1位の「消費生活」領域と最下位の「地域活動」領域では、平均得点で4.39の開きがあり、また、その他の領域も含め、領域の平均得点の大小と上下15位に入った項目数の間には一定の関係もみられ、領域間のニーズの強さに差があるものと認められる。

このように、「医療と保健」領域のように充足度の高まりと共にニーズが比較的にな弱くなった領域もあるが、「消費生活」や「安全」領域などのように重要度が高く、かつ充足度の低い領域でニーズが高くなっている。

表 3-3-4 領域別にみたニーズ得点

領 域	領 域 平 均 得 点	同 左 順 位	上 入 位 15 位 に 入 った 項 目 数	下 入 位 15 位 に 入 った 項 目 数
消 費 生 活	15.34	①	4/5	
安 全	15.10	②	3/4	
労 働	13.89	③	4/9	
防 犯	13.71	④		
社 会 福 祉	13.43	⑤	3/6	1/6
住 宅	13.24	⑥	1/5	
快 適	12.72	⑦		1/6
教 育	11.94	⑧		2/6
余 暇	11.92	⑨		1/5
医 療 と 保 健	11.78	⑩		2/4
文 化	11.75	⑪		1/3
利 便	10.95	⑫		3/3
地 域 活 動	10.95	⑬		4/6

(分母の数字は、各領域の項目数)

(3) ニーズ得点の分布

以上、ニーズの水準をニーズ得点をもとに見てきたが、ニーズの強さは収入や居住地域など個人のおかれている立場や属性によって当然異なってくる。こうしたニーズの散らばりの状況をみるため、その変動係数と平均得点を座標上にプロットしたのが、図3-3-2である。

変動係数の小さい項目をみると、「消費生活」領域や「安全」領域、「社会福祉」領域に属するニーズの強い項目があがっており、県民が一致して強いニーズを示しているものとみられる。

また、変動係数の大きい項目をみると、「利便」「快適」「余暇」などの領域に属するニーズの弱い項目があがっており、これらの項目のニーズの強さには個人差があり、平均得点が低くなっているものとみられる。

このように変動係数が小さいほどニーズ得点が高く、変動係数が大きいほど得点が低いという傾向がみられるが、一部の項目においては異なり、持家の確保や長期休暇の取得などはニーズ得点が必ずしも低くないのに変動係数が大きくなっており、県民のニーズの強さが相当分散してい

る結果だと考えられる。逆に、福祉活動や法執行の公正などはニーズ得点は必ずしも高くはないのに変動係数は非常に小さく、これらの項目は県民のほぼ一致したニーズ水準といえよう。

ニーズの強い領域或いは項目については、当然適切な施策対応が必要であるが、ニーズ得点の散らばりの大きい領域や項目についても、今後ニーズの強さが変化する可能性があることに注意し、どのような属性でニーズが強くなっているかを見極める必要がある。

図3-3-2 ニーズ得点と変動係数

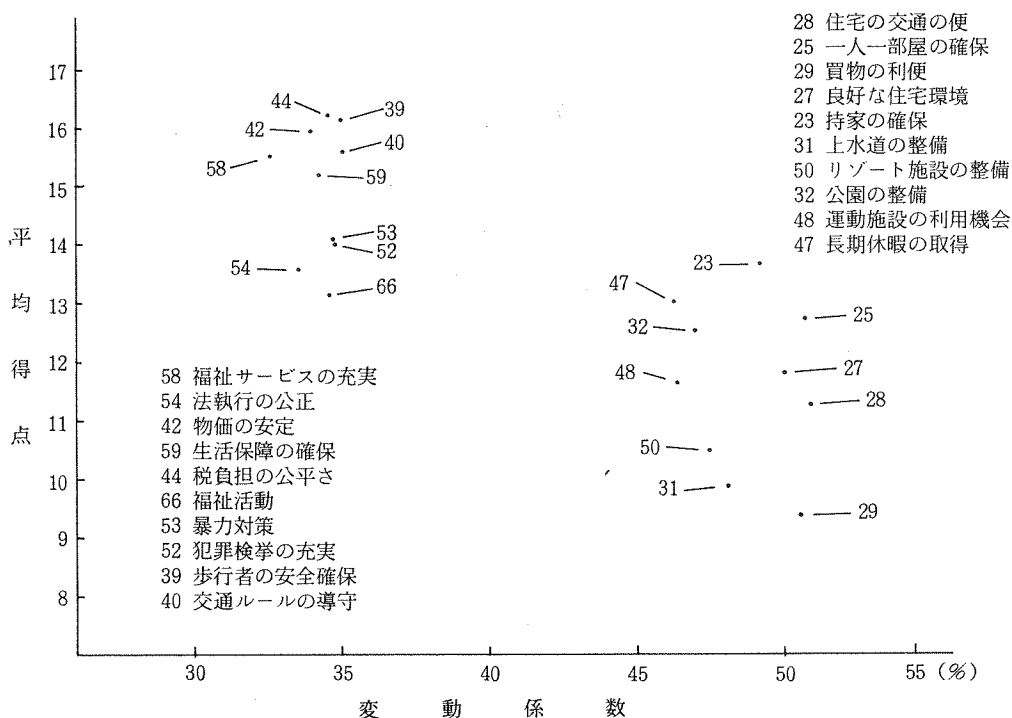


表 3-3-5 ニーズ得点と変動係数

① 変動係数の小さいもの

順位	領域	項目	変動係数	平均得点
1	社会福祉	58. 福祉サービスの充実	32.6	15.50
2	防 犯	54. 法執行の公正	33.5	13.56
3	消費生活	42. 物価の安定	33.9	15.96
4	社会福祉	59. 生活保障の確保	34.2	15.16
5	消費生活	44. 税負担の公平さ	34.6	16.21
6	地域活動	66. 福祉活動	34.6	13.17
7	防 犯	53. 暴力対策	34.7	14.04
8	防 犯	52. 犯罪検挙の充実	34.8	14.01
9	安 全	39. 歩行者の安全確保	34.9	16.12
10	安 全	40. 交通ルールへの遵守	35.1	15.57

② 変動係数の大きいもの

順位	領域	項目	変動係数	平均得点
1	利 便	28. 住宅の交通の便	50.9	11.22
2	住 宅	25. 一人一部屋の確保	50.6	12.70
3	利 便	29. 買物の利便	50.5	9.35
4	住 宅	27. 良好な住宅環境	50.0	11.80
5	住 宅	23. 持家の確保	49.2	13.65
6	快 適	31. 上水道の整備	48.1	9.86
7	余 暇	50. リゾート施設の整備	47.5	10.45
8	快 適	32. 公園の整備	47.0	12.52
9	余 暇	48. 運動施設の利用機会	46.4	11.61
10	余 暇	47. 長期休暇の取得	46.3	12.99

(4) 地域別のニーズ得点

次に、地域別にニーズ得点をみると(表3-3-6)、八重山地域は1位となった領域が最も多く(13領域のうち8)、特に「消費生活」「労働」「余暇」領域などのニーズが相対的に高く、全体的にニーズ得点が最も高い地域となった。また、那覇地域は「住宅」「快適」領域を中心に、比較的ニーズ得点の高い領域が多く、八重山地域に次いでニーズの高い地域となっている。一方、北部地域は「教育」「利便」領域を除く11の領域で全体の平均値を下回り、全体的にニーズ得点の最も低い地域となった。また、宮古地域では「文化」「医療と保健」領域が比較的高いニーズを示したが「住宅」「利便」「安全」「防犯」「社会福祉」などのニーズ得点が最も低く、全体的には北部地域に次いで低かった。なお、中部地域は「安全」領域を除き中位のニーズを示し、また、南部地域は全領域にわたって中位のニーズで、全体的にも、それぞれ中位のニーズ水準となっている。

これを地域別の項目順位でみると(表3-3-7)、ニーズ得点が最も高かったのは、北部と宮古においては失業の不安の解消で、中部が歩行者の安全確保、那覇が税負担の公平さ、南部が物価の安定、八重山が収入の増加等となっている。また、2位については北部と南部が税負担の公平さ、中部が物価の安定、那覇が歩行者の安全確保、宮古が収入の増加、八重山が物価の安定となっている。このように地域別には、項目ごとの重要度や充足度の違いにより増幅されて、中部及び那覇、南部と北部や宮古、八重山とではかなりの差異がみられる。中部と那覇、南部では、税負担の公平さ、歩行者の安全確保、物価の安定などの項目のどちらかを1位と2位のニーズとしているが、北部と宮古においては失業の不安の解消へのニーズが最も強く、八重山では収入の増加のニーズが特に強くなっている。また、宮古では歩行者の安全確保が18位とかなり低く、他地域と異なった状況にある。

また、地域別の項目順位を県計の順位と比べてみると、ニーズ得点が最も高かった八重山地域では、収入の増加に対するニーズが相対的に高いほか、各種学校の充実、ゴミ、下水の衛生処理などのニーズが高くなっているが、逆に、基地の安全管理の確保、親しめる自然環境などのニーズは低くなっている。また、那覇地域では、親しめる自然環境、良好な住宅環境に対するニーズは高くなっているが、職業紹介・訓練の充実などは相対的に低いニーズとなっている。

一方、ニーズ得点が最も低かった北部地域では、失業の不安の解消、各種学校の充実などのニーズは高くなっているが、反面、公害防止の充実や親しめる自然環境などのニーズの低さが目立ち、また、宮古地域でも、商品苦情相談の充実や各種学校の充実などは高かったが、地価の安定をはじめ、公害防止の充実、親しめる自然環境、犯罪防止などニーズの低くなっている項目が多かった。その他地域では、南部地域がゴミ、下水の衛生処理などのニーズ高い反面、緑地の確保、親しめる自然環境などのニーズが低く、また、中部地域では基地の安全管理の確保などのニーズが比較的高い状況となっている。

以上のように、生活各面に対するニーズは、地域によって異なり、総じてみると、八重山における全体的なニーズの強さが目立ち、次いで那覇のニーズが相対的に高く、北部と宮古が低い状況にあるが、内容的には消費生活領域や自然環境、基地管理及び生活環境施設などに対するニーズの差異が大きく作用しているものとみられる。

表 3 - 3 - 6 領域別、地域別二一ズ得点

領 域	北 部	中 部	那 覇	南 部	宮 古	八重山	県 計
医 療 と 保 健	11.56⑥	11.73③	11.71④	11.70⑤	12.23②	12.47①	11.78
教 育	12.29②	11.98⑤	11.51⑥	12.09③	12.06④	12.82①	11.94
文 化	11.00⑤	11.75④	11.87③	11.99②	12.41①	10.96⑥	11.75
労 働	13.61⑥	13.93③	13.82⑤	13.98②	13.92④	14.15①	13.89
住 宅	12.37⑤	13.19②	14.04①	13.07③	11.46⑥	12.92④	13.24
利 便	10.92③	10.72④	10.08⑤	10.96②	9.85⑥	11.24①	10.59
快 適	11.16⑥	12.95②	13.26①	12.61③	11.42⑤	12.43④	12.72
安 全	13.84⑤	15.50①	15.46②	14.58④	13.48⑥	15.33③	15.10
消 費 生 活	14.48⑥	15.34④	15.50②	15.39③	15.28⑤	16.14①	15.34
余 暇	11.29⑥	11.88④	12.09②	12.09②	11.42⑤	12.61①	11.92
防 犯	13.17⑤	13.98①	13.94②	13.29④	12.40⑥	13.81③	13.71
社 会 福 祉	13.04⑤	13.55②	13.55②	13.24④	12.85⑥	13.62①	13.43
地 域 活 動	10.29⑥	10.85④	11.40②	10.72⑤	11.03③	11.52①	10.95
計	12.33⑥	12.96③	13.04②	12.84④	12.42⑤	13.19①	12.89

注) ○内は領域別の地域順位

表 3 - 3 - 7 ニーズ得点順位表

項 目	順位	地 域 別						
		北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	
44. 税負担の公平さ	1	2	5	1	2	3	6	
39. 歩行者の安全確保	2	8	1	2	8	18	3	
42. 物価の安定	3	3	2	6	1	4	2	
26. 地価の安定	4	6	4	3	4	20	9	
14. 失業の不安の解消	5	1	6	9	3	1	12	
40. 交通ルールの遵守	6	13	8	4	6	13	5	
58. 福祉サービスの充実	7	5	7	7	7	7	10	
41. 収入の増加	8	7	9	13	5	2	1	
37. 基地の安全管理の確保	9	14	3	11	15	27	24	
59. 生活保障の確保	10	11	11	5	13	17	13	
18. 高齢者・身障者の就業機会	11	9	12	10	11	8	16	
43. 年金制度の充実	12	17	13	8	10	10	18	
19. 職業・居住地選択の自由	13	10	16	16	12	11	15	
15. 仕事のやりがい	14	12	14	17	9	14	14	
56. 青少年の非行防止	15	20	15	15	29	19	8	
36. 公害防止の充実	16	36	10	20	25	43	46	
45. 商品苦情相談の充実	17	18	19	22	14	5	11	
53. 暴力対策	18	19	17	19	26	33	23	
52. 犯罪検挙の充実	19	15	18	21	23	34	26	
23. 持家の確保	20	26	28	18	17	40	31	
35. 緑地の確保	21	52	20	12	38	47	42	
54. 法執行の公正	22	24	23	24	27	24	29	
22. 職業紹介・訓練の充実	23	16	24	33	21	15	19	
65. 住民参加	24	25	27	25	22	6	17	
20. 転職の機会	25	22	26	23	18	31	35	
38. 災害対策の充実	26	30	21	30	24	29	22	
34. 親しめる自然環境	27	63	22	14	41	61	57	
51. 犯罪の防止	28	32	25	27	36	45	30	
17. 男女賃金格差の解消	29	33	30	26	35	26	25	
66. 福祉活動	30	28	32	29	32	30	27	
57. 家事、育児、教育相談の充実	31	29	29	36	28	22	21	
8. 各種学校、専修学校の充実	32	4	35	51	19	12	4	
47. 長期休暇の取得	33	42	34	28	30	39	28	

表 3-3-7 ニーズ得点順位表 (続)

県 計		地 域 別					
項 目	順位	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山
46. 週休 2 日制、労働時間の短縮	34	37	33	34	33	22	37
33. ゴミ、下水の衛生処理	35	35	38	40	16	9	7
9. 特殊教育の充実	36	21	31	37	40	28	34
11. 生涯教育	37	38	37	38	31	16	43
25. 一人一部屋の確保	38	40	40	31	34	49	36
21. 県内就職の機会	39	23	36	43	37	23	39
10. 図書館・独学施設の整備	40	27	41	46	20	37	32
32. 公園の整備	41	31	42	41	39	21	20
2. 費用の心配のない診療	42	43	39	39	42	38	33
4. 救急医療体制の確保	43	34	43	44	43	25	41
24. 公共住宅の整備	44	39	45	35	45	50	55
16. 職場の安全確保	45	44	44	48	44	42	48
7. 大学教育の開放	46	46	46	45	49	35	44
27. 良好な住宅環境	47	56	57	32	58	62	54
48. 運動施設の利用機会	48	51	50	42	52	56	38
49. クラブ参加の機会	49	45	52	49	46	48	40
12. 文化遺産・史跡の保護	50	53	48	47	48	44	58
55. 親と子の対話	51	41	49	52	54	51	51
28. 住宅の交通の便	52	48	51	61	47	58	49
3. 病気の予防・健康相談	53	55	53	50	56	41	50
30. 情報の得易さ	54	47	54	55	51	52	47
1. 診療・治療の機会	55	49	58	56	53	36	45
60. 保育の機会	56	50	56	54	50	54	64
13. 伝統工芸の振興	57	58	55	53	55	46	62
6. 小中高校の施設内容	58	54	57	58	59	55	52
50. リゾート施設の整備	59	59	60	64	57	53	59
61. 近隣とのつきあい	60	62	59	57	62	60	61
5. 幼稚園の施設内容	61	57	61	62	61	57	60
64. コミュニティ組織の充実	62	60	63	60	60	59	53
31. 上水道の整備	63	64	62	63	63	66	65
63. 公民館・集会場の利用機会	64	65	65	59	65	63	56
29. 買物の利便	65	61	64	66	64	65	63
62. 地域行事への参加	66	66	66	65	66	64	66

(5) ニーズ得点の時系列比較

次に、ニーズ得点が昭和54年、59年と比べてどのように変化したのかを見るため、時系列比較し、変化の方向を整理したのが、表3-3-8である。

全体を通覧すると、54→59年のニーズ得点は重要度がほとんどの項目で低下する一方、充足度が多くの項目で上昇したことから、比較可能な56項目中55項目でニーズ得点が低下した。また、59→平成2年においてもニーズ得点は、充足度が多くの項目で上昇した結果、58項目中41項目で低下している。

ニーズ得点が目立って上昇した項目をみると、54→59年では「収入の増加」の1項目であったが、59→平成2年では「地価の安定」が最も上昇し、次いで「親しめる自然環境」「長期休暇の取得」「福祉サービスの充実」等が続いている。一方、ニーズ得点が低下した項目をみると、54→59年では「保育の機会」をはじめ、「図書館・独学施設の整備」「クラブ参加の機会」の低下が大きく、59→平成2年では「物価の安定」「公園の整備」「病気の予防・健康の相談」等の項目の低下が目立った。

このように県民のニーズは、時代の欲求として上昇した項目もあるが、総体的には生活ニーズに対する充足度の高まりとともに低下する傾向を示している。

こうしたニーズ得点の変化を領域別に整理したのが、表3-3-9である。概して、ニーズ得点が低下傾向を示している領域が多く、特に、54→59年では「教育」「社会福祉」「余暇」などの領域で低下が大きく、59→平成2年では「医療と保健」「利便」「消費生活」などの領域の低下が目立った。

こうした低下傾向の中で、59→平成2年において「住宅」領域のほか「安全」「余暇」「社会福祉」などの領域で上昇した。特に上昇の大きかった「住宅」領域をみると、最近の地価の高騰を反映して、地価の安定に対するニーズが極だって上昇している。

このように領域別のニーズ得点はかなりの変動があったが、領域間のニーズの強弱の順位には、大きな違いはみられない。54年と59年、平成2年の結果から、ニーズ得点の平均値による13領域の順位を比べると、表3-3-10のとおりで、「消費生活」「安全」「労働」「防犯」の領域が、一貫して上位にあり、その他の分野を含めても「教育」領域が若干順位を高め、「医療と保健」が若干順位が後退しているほかは、3回ともほぼ一致した傾向で推移している状況にある。

表 3 - 3 - 8 ニーズ得点の時系列比較

領域	項 目	昭. 54年	昭. 59年	平. 2年	59年-54年	2年-59年
医療と保健	1. 診療・治療の機会	13.14	12.04	11.06	-1.10	-0.98
	2. 費用の心配のない診療	13.64	13.32	12.44	-0.32	-0.88
	3. 病気の予防・健康相談	13.17	12.43	11.21	-0.74	-1.22
	4. 救急医療体制の確保	14.09	12.98	12.31	-1.11	-0.67
教 育	5. 幼稚園の施設内容	11.83	10.65	10.29	-1.18	-0.36
	6. 小・中・高校の施設内容 (改)	*12.21	*10.89	10.82	-1.32	-0.07
	7. 大学教育の開放	-	-	11.93	-	-
	8. 各種学校の充実	*12.53	*11.37	13.05	-1.16	-1.68
	9. 特殊教育の充実	14.26	12.92	12.96	-1.34	0.04
	10. 図書館・独学施設の整備	14.26	12.75	12.58	-1.51	-0.17
文 化	11. 生涯教育	-	-	12.70	-	-
	12. 文化遺産・史跡の保護	12.18	11.55	11.55	-0.63	0.00
	13. 伝統工芸の振興	12.04	11.19	11.00	-0.85	-0.19
労 働	14. 失業の不安の解消	17.67	16.96	15.75	-0.71	-1.21
	15. 仕事のやりがい	16.18	15.11	14.65	-1.07	-0.46
	16. 職場の安全確保	12.93	12.08	11.95	-0.85	-0.13
	17. 男女賃金格差の解消	13.56	13.00	13.22	-0.56	0.22
	18. 高齢者・身障者の就業機会	15.92	14.93	15.01	-0.99	0.08
	19. 職業、居住地選択の自由	15.36	14.69	14.68	-0.67	-0.01
	20. 転職の機会	14.21	13.61	13.55	-0.60	-0.06
	21. 県内就職の機会	13.31	12.96	12.63	-0.35	-0.33
22. 職業紹介・訓練の充実 (新)	-	-	13.56	-	-	
住 宅	23. 持家の確保	13.74	13.21	13.65	-0.53	-0.44
	24. 公共住宅の整備	12.80	12.07	12.12	-0.73	0.05
	25. 一人一部屋の確保	-	12.57	12.70	-	0.13
	26. 地価の安定	15.56	14.78	15.91	-0.78	1.13
	27. 良好な住宅環境	12.29	12.09	11.80	-0.20	-0.29
利 便	28. 住宅の交通の便	12.31	11.71	11.22	-0.60	-0.49
	29. 買物の利便	10.79	10.40	9.35	-0.39	-1.05
	30. 情報の得易さ (新)	-	-	11.20	-	-
快 適	31. 上水道の整備	9.63	9.50	9.86	-0.13	0.36
	32. 公園の整備	15.17	13.77	12.52	-1.40	-1.25
	33. ゴミ、下水の衛生処理	13.95	13.39	12.96	-0.56	-0.43

表 3-3-8 ニーズ得点の時系列比較 (続)

領域	項 目	昭. 54年	昭. 59年	平. 2年	59年-54年	2年-59年
	34. 親しめる自然環境	13.17	13.48	13.25	-0.69	0.77
	35. 緑地の確保	14.71	13.89	13.61	-0.82	-0.28
	36. 公害防止の充実	14.72	14.23	14.14	-0.49	-0.09
安 全	37. 基地の安全管理の確保	15.06	14.91	15.23	-0.15	-0.32
	38. 災害対策の充実	14.16	13.55	13.46	-0.61	-0.09
	39. 歩行者の安全確保	17.47	16.19	16.12	-1.28	-0.07
	40. 交通ルールへの遵守	-	15.93	15.57	-	-0.36
消 費 生 活	41. 収入の増加	16.19	16.49	15.39	0.30	-1.10
	42. 物価の安定	19.56	17.53	15.96	-2.03	-1.57
	43. 年金制度の充実	15.70	15.23	14.99	-0.47	-0.24
	44. 税負担の公平さ (新)	-	-	16.21	-	-
	45. 商品苦情相談の充実	15.16	14.01	14.13	-1.15	0.12
余 暇	46. 週休2日制、労働時間の短縮	12.95	12.58	12.96	-0.37	0.38
	47. 長期休暇の取得	12.48	12.29	12.99	-0.19	0.70
	48. 運動施設の利用機会	13.80	12.31	11.61	-1.49	-0.70
	49. クラブ参加の機会	13.23	11.78	11.59	-1.45	-0.19
	50. リゾート施設の整備 (新)	-	-	10.45	-	-
防 犯	51. 犯罪の防止	14.82	13.48	13.24	-1.34	-0.24
	52. 犯罪検挙の充実	15.35	14.60	14.01	-0.75	-0.59
	53. 暴力対策	15.59	14.51	14.04	-1.08	-0.47
	54. 法執行の公正	14.34	13.69	13.56	-0.65	-0.13
社 会 福 祉	55. 親と子の対話	11.88	11.36	11.38	-0.52	0.02
	56. 青少年の非行防止	15.25	14.36	14.32	-0.89	-0.04
	57. 家事、育児、教育相談の充実	14.15	13.01	13.16	-1.14	0.15
	58. 福祉サービスの充実	16.24	15.08	15.50	-1.16	0.42
	59. 生活保障の確保	16.11	14.82	15.16	-1.29	0.34
	60. 保育の機会	13.33	11.77	11.05	-1.56	-0.72
地 域 活 動	61. 近隣とのつきあい	10.56	10.27	10.44	-0.29	0.17
	62. 地域行事への参加	9.30	8.75	8.89	-0.55	0.14
	63. 公民館・集会場の利用機会	10.68	9.69	9.51	-0.99	-0.18
	64. コミュニティ組織の充実	11.02	10.08	10.13	-0.94	0.05
	65. 住民参加	15.02	14.04	13.56	-0.98	-0.48
	66. 福祉活動 (新)	-	-	13.17	-	-

注) 表 3-1-7 と同じ要領で作成

表3-3-9 領域別にみたニーズ得点の変化

領 域	変化の方向（数字は項目数）						平均得点の増減				
	54 → 59年			59 → 平2年			54年 → 59年 → 2年				
	+	0	-	+	0	-					
医療と保健	0	0	4	0	0	4	13.50	→	12.69	→	11.78
教 育	0	0	4	0	0	4	13.14	→	11.80	→	11.66
文 化	0	0	2	0	1	1	12.11	→	11.37	→	11.28
労 働	0	0	8	2	0	6	14.89	→	14.17	→	13.93
住 宅	0	0	4	2	0	2	13.60	→	13.04	→	13.37
利 便	0	0	2	0	0	2	11.55	→	11.06	→	10.29
快 適	0	0	6	2	0	4	13.56	→	12.88	→	12.72
安 全	0	0	3	0	0	3	15.56	→	14.88	→	14.94
消費生活	1	0	3	1	0	3	16.65	→	15.81	→	15.12
余 暇	0	0	4	2	0	2	13.12	→	12.24	→	12.29
防 犯	0	0	4	0	0	4	15.03	→	14.07	→	13.71
社会福祉	0	0	6	4	0	2	14.49	→	13.40	→	13.43
地域活動	0	0	5	3	0	2	11.32	→	10.57	→	10.51
計	1	0	55	16	1	41	13.73	→	12.92	→	12.69

注) 平成2年と対応する項目は、54年が56項目、59年が58項目である。

表3-3-10 領域別ニーズ得点の比較（県計）

領 域	今回調査（平2）		2回目（昭59）		1回目（昭54）	
	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点
消費生活	①	15.34	①	15.49	①	16.32
安 全	②	15.10	②	15.14	②	15.56
労 働	③	13.89	④	13.85	④	14.57
防 犯	④	13.71	③	14.07	③	15.03
社会福祉	⑤	13.43	⑤	12.99	⑤	13.97
住 宅	⑥	13.24	⑥	12.94	⑥	12.60
快 適	⑦	12.72	⑦	12.88	⑦	13.56
教 育	⑧	11.94	⑩	11.65	⑪	12.59
余 暇	⑨	11.92	⑧	12.24	⑨	13.12
医療と保健	⑩	11.78	⑨	12.69	⑧	13.51
文 化	⑪	11.75	⑪	11.37	⑩	12.76
利 便	⑫	10.95	⑬	10.79	⑫	11.85
地域活動	⑫	10.95	⑫	10.96	⑬	11.32
県 計		12.89		12.94		13.79

注) 得点は、それぞれの調査時に設定された項目、領域に基づく